

原籍地 南村山郡上ノ山町鶴脛町湯町

帝國劇場女子
音樂部教師

村上彦三

現住所 東京市牛込區赤城下町七八



氏は明治十六年七月十四日生で、温泉業貞治氏の次男上ノ山尋常高等小學校卒業後、明新學校(中學程度)に入り明治三十二年同校を卒業し、同三十三年戸山陸軍々樂隊に入り、大正元年同隊を退き、直に帝劇洋樂部に入りて女子音樂部の洋樂教授を擔任した。



氏の洋樂に對する造詣は其の少年時代からの天才から來て居るのは云ふまでもないが、併し其不斷の努力、研究が氏をして今日の玉成をなさしめたものである。而して氏は今日も尙日夜音樂の研究に没頭され不斷の努力を續けられて居る。夫人榮子(明治廿七年六月廿三日生)長女みゑ子は赤城小學六年。(左圖)

原籍地 南村山郡堀田村

元衆議院議員
青山腦病院院長

齊藤紀一

現住所 東京市赤坂區青山南町五ノ八一 電話青山六五一番 六五二番

精神病學の泰斗にして元代議士たりし氏は文久三年八月、文三郎氏の長男として生る。明治十三年帝都に出て普通學及び獨逸語を修め、後山形縣立醫學校に入り、同十九年卒業。廿一年開業醫試驗に合格し、廿四年醫科大學に病理衛生學を修め、又國家醫學會に裁判學を研究す。卅三年渡佛、腦病精神病の二科を研鑽し、更に獨逸伯林大學に轉じ、同卅六年獨逸醫學博士の學位を受く。歸途、英國、印度を調査し、歸朝後青山腦病院を設けて爾來その院長たり。四十一年再び斯學研究の爲め渡歐し、英、米、佛、獨、白、葡、西、蘭、瑞、伊、澳、希、土、丁抹、瑞典、蘇、露の諸國を歴遊し、滯歐三ヶ年にして歸朝す。尙氏は政界にも令名あり、第四十一議會に於ては衆議院議員にして政友會の幹部たり。尙赤坂區會議員、赤坂醫師會幹事たり。尙外に名譽職の肩書を有する十有餘の多きに及び。夫人はひさ子。長男西洋、養子茂吉、茂吉氏は醫博にしてアラキ派の歌人にして夫人てる子は紀一氏の長女なり。

原籍地 東京市赤坂區丹後町一

麴町區長 川部 爽介

現住所 東京府荏原郡駒澤町世田ヶ谷新町四六七

氏の原籍地は東京市になつて居るが、東村山郡天童町の出身で、我山形縣が生んだ人材の一人である。

氏は少壯時代より努力奮闘の人で、學生時代は苦學力行したが、學卒ゆるや其登龍門の踏み出しは東京市役所であつた。

市役所に於て氏は最も忠實に其職務を盡したが、其後深川區役所に移り同地方の爲めに盡力した。

震災の少し前即ち大正十二年三月麴町區長の榮職に就き、震災前後は救濟、復興に寢食を忘れて努力した。

麴町區長として今日に至る。以て氏の人格の一斑を知るに足る。氏の趣味は働くと云ふことにある。

原籍地 米澤市

從七位 復興局技師 小室 親一

現住所 東京市牛込區新小川町二ノ一八



氏は小室祐雲氏の長男で、明治十六年十月の生れ、明治三十六年鐵道學校建設科を卒業し同三十七年岩倉鐵道學校建設高等科を卒業し、同年鐵道作業局雇拜命、建設部に勤務した。明治四十年十月には帝國鐵道廳技手に任せられ、鐵道橋梁其他構造物の設計並に製作監督事務に従事した。大正十三年三月には鐵道技師となつて退職し、直に復興局土木部事務を囑託せられ、専ら市街公道橋の設計並に製作の監督に従事して居る。氏の官歴は右の通りであるが、講師としては明治三十八年十月岩倉鐵道學校建設科講師囑託、大正十一年三月鐵道省教習所講師被命、同十三年九月東京鐵道學校建設科講師を囑託せられ、専ら橋梁學、應用力學、設計製圖等の教授を擔任して、其訓育した多數の子弟は何れも國家有用の材として各方面に奉職して居る。趣味は謠曲、撞球等。

原籍地 東京市小石川區水道端一ノ六

實業家 舟山麗次

現住所 東京市牛込區市ヶ谷藥王寺町七四

氏は明治廿一年二月廿日生。

原籍地は東京市になつて居るが、出生地は東叡賜郡で生粹の山形縣人である。

二十何歳まで郷里にあつたが、大正二年志を立て、上京、之れ氏が今日の地位を得るに至つた登龍門の端緒である。

上京後直に内國通運會社に入つたが、其後累進して函館、小樽、大阪、下ノ關、横濱、東京等の各支店長となり縦横に其敏腕を揮つた。

大正十二年に至つて内國通運を退社し、獨立事業計畫を思立ち、目下製氷業の箇人經營に従事して居る。

更に中央商業銀行代表者たり。

活動的な多望の未來を有する新進實業家の一人。

原籍地 山形市鍛冶町八七

公 吏 安孫子俊男

現住所 東京府南葛飾郡隅田町二五九

電話墨田一五〇二番

氏は獨立獨行の人、明治廿一年一月廿五日生。

郷里の小學校を優等で卒業するや、直に山形縣立山形中學校に入り、同校ヲ卒業した。

大正十一年上京。

上京後、東京府下南葛飾郡隅田町役場庶務係任命今日に至る。
性篤實、上長町民の人望篤し。

原籍地 南村山郡榎澤村

酒卸商 鈴木孫七

現住所 東京市神田區田代町一

明治十九年一月卅一日生。
大正九年三月から郷村榎澤村役場に於て收入役を勤務し郷黨の信用も頗る篤かつたが、大正十二年十二月、東京大震災後、機を見るに敏なる氏は斷然志を立て、上京、前記の場所に酒類の卸小賣業を開始したが、堅實にして機敏な營業方法は、氏の商店をして逐日發展の途に就かしめつゝあり。

原籍地 飽海郡高瀬村當山六一

洋服裁縫業 大川清

現住所 東京府北豊島郡瀧野川町西ヶ原一三四

明治卅六年十二月七日生。
弘覽氏次男、郷里に於て高等小學校卒業後、大正四年十一月上京、小石川の成松洋服店で暫らく實地修業した。
大正十四年六月現在の場所に開業、信用厚く營業日増しに發展す。
父弘覽氏は郷里に於て庄内盲學校の教職にある篤志家である。



原籍地 東京市芝區新櫻田町一九

印刷業 菅野伊佐美

現住所 原籍地

氏は明治十四年三月廿一日生。

明治卅一年志を立て、上京。

其後東京毎夕新聞社、やまと新聞社、讀賣新聞社、中央新聞社等各社活版部長として斯業に従事した。

刻下は東京日日新聞工場長補佐として敏腕を揮つて居る。

他に江東印刷株式會社相談役たり。

原籍地は東京にあるが、氏は本縣山形市香澄町の出身である、

原籍地 米澤市新町

元官吏 關谷直行

現住所 東京府北豊島郡高田町雜司ヶ谷六二二

氏は文久二年十月卅日生、忠右衛門氏次男、丁年にして山形縣廳に出仕し、恪勤精勵歴代上官の親任厚く、累進して明治廿三年十月山形縣警部に任せられ、同卅一年四月岐阜縣警務課長に榮轉、同卅二年八月奈良縣警務課長に轉じ、同卅五年保安課長に榮轉、同卅六年九月茨城縣警部保安課長となり、同卅九年二月同縣警視、水戸警察署長となる。

同四十三年十一月茨城縣東茨城郡長となり、大正七年一月同縣新治郡長に轉じ、大正十年赤十字社茨城縣支部主事となり、後閑職に就き今日に至る。

正五位勳五等、以て氏が長き官界生活の功勳を物語る。

氏の趣味は極めて廣汎にして、書を能くし、又書を能くす。従つて卓拔の美術鑑賞眼を有し、蒐集せる無數の書畫骨董は好事家をして垂涎せしむるものある。

原籍地 南村山郡上ノ山町鶴脛町四四一

東京帝國大學 工學部教授 佐野利器

現住所 東京市小石川區駕籠町一六〇

電話小石川一五四七番

我國建築界にその人ありと云はれる正五位、工學博士佐野氏は山口文吾氏の弟として明治十三年四月羽前荒砥町に生る。幼にして天才的閃きあり、即ち乞はれて時の荒砥尋高校長佐野誠一郎氏の養子となり大正九年家督相續す。

明治卅六年東京帝國大學工科大學建築科卒業。直ちに同大學大學院に入り、卅九年工科大學助教授拜命。

四十三年建築學研究の爲英、米、獨、伊等、歐米諸國に留學。大正四年工學博士となり同七年東京帝國大學工科大學教授拜命。十年宮内技師兼任。大震災後復興局技師として重要な地位にありたるは最近のことである。

家族は養父誠一郎氏。令夫人ませ子(明治二十八年生)。一男四女あり。

原籍地 東京市小石川區下富坂町一九

辯護士 吉田新太郎

現住所 原籍地 電話小石川一三四二番



氏は本縣新庄戸澤藩の出、明治八年八月廿七日生、直孝氏男。

明治廿七年四月上京、直に司法省に入り、刑事局に出仕して精勵其職にあること四ヶ年、同卅五年七月福井地方裁判所判事に補せられたが、同卅九年十月偶感する所あり、斷然職を退いて辯護士を開業した。

氏が辯護士として其手腕力量を一斑に認められたのは、彼の柳島四人殺と、有名な新寄生木事件である。柳島四人殺事件は第一審で死刑の宣告を受けたのを第二審で無罪に至らしめたもので、氏の辯論大に與つて力あつたのは云ふまでもない、新寄生木事件は之亦氏の熱心な辯護で原藤氏を暗黒裏より救ひ上げたものである。

氏は正式に中學の教育を受けずに獨學で、最後に和佛法律學校を卒業し、今日の地歩を築き上げたもので、慥に立志傳中の人物と云ふも過言でない。

原籍地 米澤市

會社重役 本間利雄

現住所 東京市麴町區三番町二七 電話四谷二三一〇番

正五位、勳四等本間利雄氏は郷縣平民本間東三郎長男である。明治十年三月の生れ明治四十四年分家して一家を創立す。

夙に學事に親しみ、普通學を卒るや上京、東京外國語學校に入り、明治卅五年七月拔群の成績を以て同校を出で、進んで東京帝國大學法科に入學し、四十年七月同校卒業、更に大學院に入りて研鑽、同年文官高等試験に合格し、北海道廳屬となり、四十年十月富山縣事務官に任せられ、更に理事官となり、鳥根、愛媛、各縣警察部長を経て大正六年一月廣島縣警察部長に轉任し、更に警視廳官房主事同高等課長、兵庫縣内務部長に任せらる。

越へて大正十一年歐米視察に派遣せられ、同年十月歸朝直ちに長野縣知事に任せられ、尙更に山梨縣知事を経て十四年職を辭し目下信越電力重役たり。家族は夫人ヤエ子(明治廿年生、池田成彬氏妹)との間に男利章、長女綾子、二女操あり。

原籍地 東京市麻布區飯倉町五ノ四一

寫真業 中 鉢 直 綱

現住所

原籍地

電話青山六七七六番

氏は明治十二年羽前天童藩に生る。明治卅年山形市菊池寫真館にて寫真術一般を修得し、次いで東京市神田區大川孝氏に就き、寫真修整術を専修し、明治卅五年北海道旭川市に寫真館を設け獨立開業す。明治卅七年八月日露の戦端開かるゝや召集せられて第七師團附きを命ぜらる。即ち旅順要塞戦に在り、特に命ぜられて二〇三高地奪取戦東鷄冠山砲臺、二龍山、松樹山砲臺等の爆破の光景數十種を撮影し、天覽に供せらる。卅九年凱旋、後寫真業一般視察研修の爲米國ニウヨーク市バツクブラザー寫真館に入り、親しくデーバツク氏の指導の下に實地修業す。四十二年歸朝、現地に開業。今日に及ぶ、尙その間第七師團司令部の囑を受け、同師團各隊各兵種の冬季雪中練兵動作百數十種撮影天覽に供せらる。又上原參謀總長の囑を受け、閑院、久邇、梨本各殿下を御撮影申上ぐ。更に博覽會展覽會等に作品出品褒賞三、三等賞牌二を受く。

原籍地 山形市小姓町一三九

銀行員 大津 俊 一 郎

現住所

東京府在原郡蒲田町御園二二九

慶應からは銀行家が出ると云はれる。氏も亦大正七年四月の慶應出身である。然かも銀行家の母胎であるべき理財科の出身である。

氏は慶應を卒るや直ちに淺野物産株式會社に入社したが、思ふ所あつて同社 辭し即ち株式會社武州銀行に入つた。これ大正十年の事である。

根が銀行家の人である。武州銀行入社こそは氏にとつて最も活動に都合の良い舞臺であつた。今日の氏は同銀行の東京支店支配人代理である。銀行家としての氏の手腕以て知るべきであり、亦二十四年生れ、三十六歳の少壯は氏の將來の發展を保證するであらう。

氏の閱歷の一つとして珍とすべきは大正十一年陸軍三等主計となる。その事であらう。

原籍地 米澤市本五十騎町四八七八

貨物自動車運輸業 和田 信 雄

現住所 東京市麴町區飯田町六ノ三

氏の母校は米澤中學である。卒業後直ちに上京、鐵道省の前身なる帝國鐵道廳に入り傍ら、工手學校採鑛冶金科に學び、他日事業界に雄飛するの素地を作つた。同校卒業後直に古河鑛業株式會社に入社し、彼の十二年關東大震災の際辭任し、後飯田町四ノ五一に自動車運輸業を起し、後更に現住地に移りて今日に至る。明治廿一年一月誕生。祖母、一女(十歳)一男(五歳)の家庭。

原籍地 南村山郡金井村松原

實業家 横山平七

現住所 東京市小石川區大塚仲町四一

電話小石川七二三五番



氏は明治卅年一月一日生。

大正三年政玉社を出てから、東京府廳外二、三縣に官吏として奉職したが、同八年から官界生活を思切り三四民間會社の技師長として敏腕を揮つた。

時偶々大正十二年の大震災火災に遭遇するや、氏は自ら以て獨立飛躍の時期到れりとなし、八丈島興業株式會社專務取締役として同社の經營に従事し、更に共榮貯金銀行監査役となり漸次實業家としての地歩を作る 到つた。

本年に到り清浦子爵を顧問とし、東京市内第一流の實業家を背景とし、熱心な日蓮宗信者の後援の下に身延溫泉興業株式會社(資本金五百卅圓)の創立に着手し、着々其歩を進めて居る、又高湯電鐵も氏の主唱に成つて居るので、本縣出身の新進實業家として其前途は大に着目されて居る。

原籍地 山形市香澄町小鏡

外語協會學校長 岩井貞治

現住所 東京市麴町區有樂町一ノ三

氏は明治十五年一月十一日生。山形縣立山形中學校卒業後、早稻田大學に入り明治卅七年同大學高等師範部史學及英文學科卒業。卒業後一時山崎商店に入り輸出部を擔當したが、其後廣島、松山等の各中學に教鞭を取り、幾もなくして之を辭して歸京し、希獵商業會議所全權レコス氏の秘書となり大に其手腕を認めらる。大正四年に到り、氏は外語教育の不完全なるを慨し、自ら現在の場所に外語協會學校を設立し、苦心經營既に十餘年、同校卒業の人材亦萬を以て數へ、何れも國家有用の人才として各地に活動して居る。殊に近來増設せるタイプライター科は、頗る時代の要求に適合したるものと見え非常の盛況を呈し、外語協會學校の存在は官界にも民間にも、充分認識さるゝに到つた。

原籍地 最上郡西小國村瀬見

工業家 田中徳五郎

現住所 東京市芝區田町四ノ六

電話高輪五五二八番

郷里に於て中等教育を受けた氏は、高等學校を経て、東京帝國大學に入り、明治四十四年同大學機械科を卒業した。

同大學卒業後函館に於て船渠技師たること三年間、其後株式會社日本製鋼所技師として八年間勤務したが、大正十一年に到つて現在の場所に工業所を獨立開業し以て今日に到る。

同工業所の營業種目左の如し。

機械並に一般鐵構物の現場組立

貨物自動車運送業

尙實弟林學士大町徳三郎氏も同工業所に於て共同經營に従事し、大に好成績を擧げて居る。

原籍地 最上郡新庄町小田島一九二

クローニング業 北條龍雄

現住所 東京市麻布區霞町一

氏は明治廿五年八月廿五日生。

原籍地 西置賜郡鮎貝村

洋服裁縫業 石山糾佑

現住所 東京市麴町區飯田町六ノ一七

氏は明治廿八年一月七日生。
大正八年上京。

上京してから牛込區山吹町に二ヶ年洋服裁縫業を營んだが、大正十年更に業務發展の目的を以て現在の場所に移轉し、營業日に益繁昌して居る。
女子二人あり。



原籍地 東田川郡狩川村

社會局囑托 海藤淳一郎

現住所 東京市本所區長崎町一四

氏は明治廿八年七月五日生。

郷里の庄内中學校卒業。

後鹿兒島の高等學校に入學し、之を卒業した。

大正十一年帝國大學經濟學科卒業。

直に社會局に就任し、方面事務を囑托され、以て今日に到る。

原籍地 山形市二日町二二一

洋服商 森谷源次郎

現住所 東京市赤坂區一ツ木町三四

赤坂一ツ木町の森谷氏。次に氏の経歴を略記しやう。

明治廿一年四月七日生。

大正八年四月十五日上京。

大正十年迄芝區洋服店佐藤商會に入社、備に斯業に就て修得する所があつた。後現住地に獨立洋服商を營み、主として既製品の裁縫をなし、其の熱心と、熟練した技工とは氏の營業をして日増し發展せしめて居る。家族六人。

原籍地 飽海郡吹浦村湯ノ田

薪炭業 阪口喜久治

現住所、東京市麴町區飯田町五ノ一

氏は現在の場所に大正十二年十一月から材木販賣業を開始し、翌十三年更に薪炭業を開始し、努力奮闘、盛に其營業の擴張に躍めつゝある。

氏は明治卅五年上京、警視廳に勤務したことあつたが、大正七年には麴町區飯田町の三六に下宿業を始め、更に日本橋區長谷川町八竹内商會に勤務し、同十二年震災後時機到れりとなして現在の場所に獨立開業し、以て今日に到る。

女子三人ある。



原籍地 山形市六日町七二八

四〇八

緑屋呉服店主 渡邊富藏

現住所 東京府豊多摩郡野方町新井五九四

電話中野四〇四番

氏は明治十八年六月一日生、亡芳吉氏長男。

小學校卒業後直に山形市六日町稻田善三郎氏方へ商業見習を九年間やつた。此間氏はつぶさに商人として修業を積んだ。

其間山形織物及び機業にも従事した。

大正五年上京、市ヶ谷で有名な老舗あまさけや呉服店に入つて他日雄飛すべき商業上の研究を充分にした。其後大崎絹綿紡績會社を設立し、自ら其經營の衝に當つた。

大正十一年に到り現在の場所に緑屋呉服店を開業したが、營業日に増し繁昌し、同方面で緑屋と云へば誰知らぬものもない第一流の呉服屋となつて居る。今後の發展更に見るべきものあらん。氏に一女あり。

原籍地 山形市宮町

辯護士 神谷貞雄

現住所 東京市小石川區竹早町五四

電話小石川七七八八番

氏は明治廿九年四月十五日生。

山形縣立山形中學校卒業。

其後高等學校を経て、東京帝國大學に入り、大正八年同大學法科を卒業。

卒業後辯護士岩田宙造博士の門に入り、民事方面を研鑽、擔當した。

大正十三年五月獨立辯護士開業、以て今日に到る。

氏頭腦明晰、敏腕家にして大審院新判決を編めることあり。

父君曩に大審院判事たり。

原籍地 山形市旅籠町三七三

新聞記者 武田長之助

現住所 東京市麻布區我善坊町四四

氏は徹頭徹尾獨力獨行の人。誕生は明治十六年三月十日。

氏が操觚界への振出しは明治卅五年山形日報記者見習である。

同卅年には例の日露職役に際し歩兵補充兵として霞城聯隊に應召。卅九年除隊。功に依り勳八等瑞寶章及び従軍紀章下賜さる。

除隊後、羽太銳治博士の關係せる出版業に従事し、長野縣出張中南信日日新聞に乞はれ再び操觚界の人となる。

明治四十一年夏莊内新報に轉じ翌年十二月更に山形日報に轉す。

大正六年夏上京、時事新報社に入り、初め地方版を擔當せしが、後時事年鑑出版せらるゝに及んで之に移り、編纂事務を主宰して今日に到る。同年鑑が我國年鑑の白眉にして且つ世界的權威を有するは何人も知る所である。

原籍地 北村山郡福原村名木澤四一

石版活版印刷業 池田悦太郎

現住所 東京市淺草區馬道町三ノ二

明治廿年十月卅日生。權兵衛氏二男。

郷里に於て小學修業後、山形市の小林洋物店に入り商業上の實地見習をした。

大正三年三月上京陶器店を開業したが、後石版活版業の有望なるに着目し、同十三年より現在の場所に開業、營業日増し發展しつゝある。氏に一女あり。

原籍地 東田川郡余目町余目

飲食店業 原田功太郎

現住所 東京市淺草區淺草町五一

明治廿三年十二月五日生。與右衛門氏長男、郷里に於て酒造業を營む。後考ふる所あり、大正十二年十一月上京現在の場所に飲食店を開業し、日増しに繁昌して居る。並に氏はゴム加工の有望なるを認め、ゴム加工場を兼營し相當の成績を擧げつゝあり。二男あり。

原籍地 山形市旅籠町五六六

會社員 高橋昌勝

現住所 東京府豊多摩郡杉並町高圓寺六七一

氏は明治廿一年十月十一日生。
山形師範學校附屬小學校を卒業。
夫れから早稻田大學商科に入り、明治四十四年同科を卒業した。
大正二年朝鮮總督府鐵道局に入り、五年間同地に勤務した。
而して同六年七月には南滿鐵道東京支社に入り、勤續今日に到る。
前途多望の未來を有す。

原籍地 飽海郡松嶺町南新屋敷五六

日華協信公司 監査役 渡部哲彌

現住所 東京府北豊島郡瀧野川町田端三三四

電話小石川四〇五二番



氏は明治十九年四月廿五日生。
亡宣忠氏長男。

明治卅九年山形縣立師範學校を卒業し、東田川郡狩川小學校に於て三ヶ年間教鞭を
取り、小學教育に従事す。

其後東京高等工業學校に入學、大正元年同校染色科を卒業す。

卒業後染料を主として支那貿易に事し、大正十一年より株式会社日華協信公司を
創立し、其監査役となる。

氏は非常な奮闘家で、其の今日の地位を得たのは決して偶然でない。
三男一女あり。趣味は寫眞と園藝。

原籍地 山形市宮町三二六

中央新聞校正部長 中野 左右司

現住所 東京府豊多摩郡淀橋町柏木七七四

氏は生れ乍らにしてジャーナリストとして吾が文化事業に貢献すべく運命づけられた人である。

即ち郷里にあつて創立當時の山形日日新聞記者たり。後、大正元年上京して三宅博士の主宰する雑誌日本及日本人の記者となる、大正二年轉じて中央新聞校正部に入り爾來その才腕を勉勵の効あつて今日に於ては同社校正部長の要地に在り。

性温厚、趣味としては酒、演藝。子息五人。
尙長兄左馬之助氏は山形市農會長として地方の有力者である。

原籍地 横濱市西平沼一五三

銀行家 關 口 幸 男

現住所 東京市芝區田町三ノ九

臺灣銀行秘書、關口氏の略歴を左に摘記する。

大倉高等商業學校卒業。

大正八年迄母校教授任命。

大正八年請はれて臺灣銀行に入り秘書の重職を占め以て今日に至る。

熟慮果斷の人。

明治十六年五月生れ。

氏の籍は横濱にあるが純然たる山形縣人である。

原籍地 南置賜郡玉庭村玉庭御伊勢町

教育家 本間 則 忠

現住所 東京府北豊島郡中新井村中七五八



氏は明治元年八月廿五日生、山形縣師範學校卒業後、更に東京高等師範學校に入り明治卅一年三月同校卒業、後文部屬となり、勤務の傍ら中央大學及び明治大學に入りて法律を學び、同卅三年普通學務局第一課長となり、同卅五年以來島根、山梨、鳥取、大分、栃木五縣の理事官、事務官又は部長として地方教育事務に關與した。
大正七年から同十四年迄文部事務官となり、此間武藏高等學校及富士見高等女學校及富士見女子高等學院を創立した。武藏高等學校は氏が彼の實業家として有名なる根津嘉一郎氏を勸説し、教育資金五百萬圓を醸出して、財團法人根津育英會を設立し、同會の事業として創立せるもので、一切の設計は凡て氏の立案に成つて居る、又富士見高等女學校及富士見女子高等學院は大正十三年四月廿一日の創立にして既に七百余名の學生を收容す。
氏は前各校々長たるの外、根津育英會理事、武藏高等學校評議員、文部省住宅組合常務理事、其他各種學校顧問等の重職にあり。

原籍地 東村山那天童町天童乙五八六

目黒郵便局 鈴木 東 一 郎

現住所 東京府荏原郡目黒町上目黒東山町町營住宅南三三號

明治廿三年一月十四日生。

中央大學出身。

刻下目黒郵便局簡易保險係として職務に盡瘁さる。

原籍地 鮑海郡酒田町稻荷小路七

公 吏 加 藤 卯 八

現住所 東京市本郷區駒込千駄木町七二

明治十二年二月七日生。清七氏長男。

大正六年出京、本郷區役所に勤務今日に及ぶ。

原籍地 鶴岡市新町

會社員 仙場 東太郎

現住所 東京市赤坂區青山南町五ノ八四

氏は明治十六年九月十四日生。

南滿洲鐵道株式會社員で東京支社に勤務して居らるゝが、氏は滿鐵でも會社員としてよりも寧ろ書家として有名である。

明治卅六年日下部鳴鶴の門に入つたが、大正三年鳴鶴から招呼され、同翁の家に起臥して其教を受くること數年夙に其の高弟となつた。

號を蘭堂と稱す。

滿鐵圖書會を組織し、氏之を主宰しつゝあり。

一時は出張教授もしたが今では自宅で廣く教授をなし、且つ各方面に書會を組織して活動さる。

原籍地 西田川郡西郷村長崎

相撲茶屋 石田 富五郎

現住所 東京市本所區元町二五

電話本所三二四八番



明治廿二年二月四日生。

氏が十八歳の時、偶郷里に巡業中の出羽海に其體格と、其才氣走つた氣質とを見込まれ、懇々角界に入ることを勧誘された。其が氏が他日相撲界に雄飛するに到つた動機であつたのである。

かくて出羽海部屋に入つた氏は藝名を朝緑と名乗り、日々の猛演習をやつたが、追に出羽海に見込まれる丈けあつて其進歩は驚くばかりで、大正五年には既に幕内に昇進し、當時同じ部屋の朋輩間に羨望の的となつたのであつたが、石田家より達ての懇望を斷り兼ね、且つ師出羽海の口添えもあり、大正八年角界を隠退し、石田家の養子となり、舊姓伊藤を石田と改め現在相撲茶屋を經營して居る。

原籍地 東田川郡長沼村

會社員 浦木道雄

現住所 東京市麴町區元平河町一〇

莊内中學が生んだ少壯實業家浦木道雄氏。誕生は明治卅年四月十二日だと云ふから今年三十歳の少壯中の少壯である。試みに大正五年庄内中學卒業後の經歷を見るなら大正九年の東洋協會植民學校卒業とある。現代の若い實業志願の大才が帝國大學出身と云ふに、氏の學歷は亦異彩を放つて居るものではないか。その變つた學歷を有する氏のその後の歷經はどんなであらう。

植民専門學校を卒業するや直ちに東亞煙草株式會社に入社、朝鮮京城製造所勤務として一年半後十一年の春同社を依願退職して南滿洲鐵道株式會社に入り、現に東京支店勤務とある。

氏の性温厚、家庭に二子あり長男を輝男氏と云ひ四才、次男を弘氏と云ひ三才。前途多望の敏活なる事務家。

原籍地 山形市香澄町大寶寺四二〇

麻布郵便局主事 宮本義夫

現住所 東京市麻布區北日ヶ窪町二五

世に郵便事務程我々人間に有用な勤めを見せて呉れるものは少ないだらう。しかもその當事者多くは世に現はれず日蔭の努力に終るものが多い。吾が宮本氏などもその尊い社會事業家の一人である。氏は幼時から郷里に居て郵便事務に従事して來た。然して大正七年三月上京するや直に赤坂局主事となり。十二年三月小田原局主事に轉じ同八月下谷局主事となる。體軀肥滿、見るからに豪健らしく、その性亦極めて温厚、上長の氣受けよく現在には十四年十一月より以來引續いて麻布局主事として着々郵便事務の完成に苦心して居る。

明治十二年十一月生れの活動盛り。

原籍地 東置賜郡中郡村

工業家 伊藤源太郎

現住所 東京市本所區千歳町四四



氏は明治十五年十一月三日生。

明治三十年僅か十五歳の弱年で上京、爾來工場見習職工となり、或は鐵道工夫となり、あらゆる困難に闘ひつゝある中、偶々現在の工業用品理髪用器具、椅子、バリカ、剃刀等の製造販賣が最も有利の事業なるを着眼し、一意専心之が製造に着手し、現今理髪業者間、斯業者間には殆んど氏を知らぬものなき迄有名になつた。従つて氏の事業も意外の發展を遂げたのは云ふまでもない。

氏は前半生の惡戦苦闘に顧みて、貧兒、孤兒等には多大の同情を有し、或は貧兒に對して毎月養育費を送り、或は孤兒を自宅に引取り我兒と同様に教育し、小學、中學より最高學府まで學資を給せるもの多々あり。氏の人格は之れでも充分看取される。

原籍地 東村山郡出羽村七浦

袴帶商 安食泰吉

現住所 東京市淺草區西仲町三〇

袴帶商——滅多に聞かれない商賣である。奥ゆかしい商賣である。近時吾國民西洋渡來の器械、文明の普及甚しく、誰も彼も洋服生活者となれる時、日本式な店舗を維持せらるゝ氏も亦著しく奥ゆかしい人で、殊にどんな人間にも公平に、物の判りよく交際はれるなど、全くの日本的セントルマンである、その閱歷を見るに、善次郎氏の五男とある。嚴父六十五歳の高齡を全ふして逝かる。

大正二年上京、日本橋區小傳馬町に於て呉服店開業、故あつて大正十三年現業に移りその後旭日の發展を來す。

氏が上京後今日迄の辛苦吾々の訊いて範とすべきものあり。明治十八年誕生。

原籍地 東村山縣出羽村七浦

米酒販賣業 安 食 高 治

現住所 東京府豊多摩郡大久保町西大久保二九七

氏は袴帶商安喰泰吉氏を兄に持ち、善次郎氏の六男である。
 明治廿一年七月誕生とあるから令兄より三つ下なわけである。
 氏が上京したのは大正二年であつた。即ち東京市電氣局に勤務し、ひそかに青雲の
 來るを待つ。時に期あり、大正十一年電氣局を辭し、獨立にて米酒販賣業を開業す。
 爾來刻苦勉勵業務の發展に務め吾が縣人の名を同業者間に輝かしつゝあり。
 性質温順、よく令兄泰吉氏に相似す。
 氏と云ひ令兄と云ひ、更に一箇の學歷なく今日の功を得たる、正に愕くべきもので
 ある。地下の嚴父以て瞑すべきであらう。

原籍地 山形市六日町六五七

金融業 奥 山 喜 兵 衛

現住所 東京市下谷區上車坂町一九



氏は明治六年六月十三日生。

山形市で有名な元の紅葉屋餅店の出である。幼にして上の山の呉服店に九年餘奉公
 し、山形市に歸り、同市旅籠町で洋物、雜貨店を開業し、後御用商人となり、日露戰
 争には御用商人として従軍し、陸戰隊と行動を共にし、戰終えて無事歸國した。

歸國後の氏は郷里で共済生命保險に約五年、仁壽生命保險に約三年、社員として募
 集に従事し多大の成績を擧ぐ。

大正六年上京、家屋賣買業に従事し、多少の資産を得、淺草に藥店を開業したるが
 時偶十二年の大震災で殆んど全滅の悲運に遭遇した。其後土地家屋差配、土地家屋賣
 買、金融業を營み今日に到る。
 氏男三人、女三人あり。長男は山形市六日町にて海產物商を營む。

原籍地 南村山郡堀田村高湯

諸器械製作販賣業 齊藤源作

現住所 東京市芝區濱松町二ノ一三

電話高輪六五二八番

勤勉實直、これ人間成功の基である。吾が齋藤氏の如き其の好摸範であらう。

氏は本年取つて卅一歳の若手である。大正九年感ずる處あり即ち家郷を辭して帝都に出で諸種販賣業を營み、獨力獨歩、苦心に苦心を重ね、大正十二年に至つて始めて諸器械製作販賣店を開業するに至つた。現在の店標は諸機械工具、ポールト、ナット等である。

氏は性温厚誠實業務に勉勵し、亦他人に對しても温情よく好意に在り。同業者間の評判大によろしきものあり。

今日の氏の事業正に日の出の如き隆盛なり。

原籍地 最上郡新庄町

會社員 富澤尙令

現住所 東京市淺草區三間町二三

氏は明治廿一年十二月廿五日生。

山形縣立新庄中學校卒業。

明治四十五年外國語學校英語科を卒業した。

學校卒業後日本電機會社を始め他の會社に勤務。

最近東京王冠コルク會社に聘せられ、同會社販賣部長の重職に就き、縦横に其敏腕を揮ひつゝあり。

同會社は一班コルク製造業を營み、市内外を通じて確實なる取引先頗る多し。

原籍地 山形市十日町五〇一

會社員 金澤幸助

現住所 東京市小石川區大塚町二五



氏は明治六年一月十五日生。

山形縣立山形中學校卒業。

仙臺第二高等學校を経て、明治卅二年東京帝國大學土木學科卒業。

直後神奈川縣廳、東京府技師たること併せて七年餘。

其後東京瓦斯株式會社工務課長として七年間同社に勤務し、更に青森、沖繩兩縣土木課長となり、小樽築港技師となる。

現在多摩川水力電氣株式會社幹部として同社發展の爲め努力さる。

四男一女あり。長男早稻田大學、次男山形高等學校、三男中學校、長女女子大學附屬女學校在學中。

原籍地 最上郡新庄町横前

辯護士 高橋巳之助

現住所 東京市四谷區尾張町二 電話四谷二七四〇番

明治廿六年十二月二日生。長作氏次男。

大正九年七月中央大學法學科卒業。

同年十月辯護士試験に及第し、現在の場所に開業今日に到る。

原籍地 鶴岡市

醫 武田敬治

現住所 東京市深川區龜久町二 電話本所三六〇三番

氏は明治二十一年二月十二日生、莊内中學校から。京都高等學校に入り、大正八年帝大醫科を卒業し、赤十字病院、陸軍囑托醫就職、其後獨立開業して今日に到る。分院分院千葉縣東金町武田至誠堂醫院。氏は復興局深川區整理員、龜久町會顧問である。

原籍地 山形市香澄町横町南一

醫 稻垣 尚 壽

現住所 東京市本所區向島須崎町七四

電話墨田四三五一番

氏は明治十九年五月十四日生。
獨逸協會學校の出身。

大正二年十一月東北帝國大學醫學專門部を卒業した。

同年十二月から淺草區明治病院内科部に勤務す。

大正五年五月から現住所に内科、小兒科を開業したが、其人に接する懇切鄭重、從つて患者の信用篤し。

大正十三年十月第六十六地區劃整理委員となり、同十五年二月本所區々會議員となる。社會各方面に盛に活動さる。

原籍地 飽海郡南平田村大字山谷

醫 長 島 健 吉

現住所 東京府北豊島郡王子町王子四五五



氏は明治廿五年八月十四日生。舊姓齋藤。

大正二年山形縣立庄内中學校卒業。

翌三年上京。

東京醫學專門學校に學び大正十一年之を卒業す。

卒業後直に日本橋山村病院(山村正雄博士經營)に入り同博士指導の下に外科皮膚泌尿器科を専攻した。

大正十四年十一月前記の場所に開業、以て今日に到る。
女二人あり。

學生時代は相撲、庭球が唯一の嗜好であつたが、今は圍碁。

原籍地 山形市

新 關 良 三

現住所 東京市小石川區大塚坂下町七一

氏は明治廿二年八月生。

西村山郡谷地町故平泉長三郎氏三男として生れ、後山形の新關家を繼がる。

大正三年東京帝國大學文科卒業。

翌四年第五高等學校教授として金澤に赴任し、大正六年學習院教授に轉任、傍ら東京帝國大學に講師たり。

大正十三年九月歐洲留學を命せられ、同十五年六月歸朝、以來引續き學習院にて公達に教鞭をとらる。

目下劇の研究に精進され、「舞臺藝術」「現代劇評論」「希臘悲劇論」等數種の著書がある。

原籍地 米澤市關東町

今 泉 忠 治

現住所 東京市小石川區同心町三八

電話小石川四七七六番

氏は明治十四年十一月出生。

明治三十四年東京私立日本中學校を卒業し、一高に入り、同三十七年十月卒業、明治四十一年には帝大法科を卒業した。

卒業の年七月には鐵道省書記官となり、大正三年鐵道業務研究の爲め鐵道省から派遣されて外國に留學した。

同じく六年十二月北海道鐵道局經理課長となり、同八年五月本省經理局購買課長となつた。

今十五年七月本省保健課長に昇進す。

夫人文子(三九)との間に二男一女あり。趣味は碁、將棋、野球等。

原籍地 鶴岡市七日町

洋服商 後藤 鐵太郎

現住所 東京市本郷區駒込富士前町三五

氏は明治廿九年十一月廿三日生。

大正四年五月上京。洋服裁縫業に就て實地に修業し、其蘊奥を極めた。かくて氏は大正九年に到り開業し、以て今日の盛況を見るに到つた。

氏は非常の努力家で、熱心誠實を以て今日の基礎を獨力で築き上げたのであつて今後の發展更に見るべきものあらん。

原籍地 最上郡新庄町常盤町

下宿業 活版印刷業 大場 春善。

現住所 東京市下谷區谷中眞島町一

氏は明治廿九年十一月廿九日生。

新庄中學出身後東都に學び、今では下宿業福富館、活版印刷業文林社印刷部の經營に従事して居る。

氏は中學在學中數學を以て最も其の得意な學科としたが、更に文藝、演劇方面に多大の趣味を持つて居る。

従つて氏は他日雜誌、又は出版業の經營に着手するの希望を持つて居る。印刷所の經營は此の希望を前提として始められたものである。

下宿業は大正九年十一月開業。活動的な氏が多方面に活躍するの時期も遠くあるまい。

原籍地 最上郡新庄町沼田一七四

三河屋吳服店

高橋芳記

現住所 東京市本郷區駒込動坂町三一

明治廿七年三月十日生。包吉氏次男。郷里に於て學業を修め、明治四十二年上京、實地見習を十年以上やり、充分斯業に熟達したので、大正九年から現在の場所に開業したが、氏の勤勉努力は其營業を日一日發展せしめ、以て今日の基礎を築き上ぐるに到つたのである。

原籍地 北村山郡小田島村二六

藥劑師 高橋幹之助

現住所 東京市本郷區田町いわしや藥局内

明治卅二年二月廿五生。

大正五年九月上京、同九年十二月藥劑師試験に及第し、同十二年五月釜山府立順治病院藥劑員任命、同十四年八月よりいわしや藥局に勤務し今日に到る。氏は亡高橋政義氏三男。

原籍地 東京市小石川區宮下町二一

會社員 信田孝善

現住所 原籍地



原籍地小石川區とあるも氏は生粹の山形つ子である。明治八年三月廿八日生れ。

明治三十四年、曹洞宗大學を卒業、同大學卒業。後感ずる處あつて畑達ひの醫學を修め、しかも醫學修業後は亦一轉して曙新聞社に入りて操觚界の人となり社會部に於て敏腕を振ひ、有名な焼打事件後同社を退社し國民新聞社に入社。

四十年都新聞社社會部に入り、傍ら諸種の事業を經營後全く新聞社を退きて事業に専念せしが再び思ふ處あり大正九年萬期報に入る。現在に於ては東京自動車協會に入りて盛に活動しつゝあり。氏は趣味の人、號を葛葉と稱し俳句をよくす。

近詠 紙に刷かる蠶のうごめきや春の霜
水車踏む目に高々と蝶々かな
打水の餘り飛や沫箒草

原籍地 東村山郡長崎町長崎三六〇

廣報通信社 廣告部主任 庄司芳助

現住所 東京府豊多摩郡戸塚上戸塚町三六一

氏は明治二十三年四月二十三日生。

同三十九年郷里小學校を卒業し、同時に羽前長崎銀行に入社し、大正六年迄勤続したが、病氣の爲め同行を退職し、同年断然志を立て、上京した。

上京後即ち大正六年十二月讀賣新聞に入社し、同十二年迄勤続したが、同年の大震災と同時に同社を辭した。

同十三年一月より廣報社に入り、廣告部を主任として敏腕を揮つて居る。其前途刮目して見るべきものある。

氏は其性、計數的の才能を有し、眞面目にして努力奮闘的な處、儘に現代に適應する好箇の事業家である。

原籍地 山形市七日町一六九

官吏 高澤源一郎

現住所 東京府荏原郡駒澤町上馬引澤一九六

氏は明治三十二年一月八日生。

大正六年三月山形縣立山形中學校を卒業す。

大正七年四月早稻田大學豫科に入り、同九年四月大學部に進み、大正十二年三月商

學部を卒業した。卒業後直に鐵道省に入り、經理局購賣第一課に勤務し今日に到る。趣味は讀書と野球見物。

原籍地 米澤市御廟町

實業家 椿 榮

現住所 東京市下谷區茅町二ノ一

電話下谷二三一番

明治卅一年五月生、米澤憲政會の重鎮、酒造家として有名な椿宮太郎氏次男。慶應義塾理財科出身、卒業後高田商會に入社。大正十四年七月同社を辭し、刻下新に實業界に新生面を開拓すべく準備中である。

原籍地 東田川郡東榮村鷺畑道合一二

民間探偵法期成同盟會理事

帝國秘密探偵社副社長

帝國人事通信社副社長

廣井潔七

現住所 京京市日本橋區小網町四ノ七

電話茅場町(66)一六一三番

氏は明治卅一年八月二日生。寅次郎氏次男、大正十四年十月六日分家して一家を創立す。郷里にて普通教育を卒え、碩儒角田敬次先生、教育家北楯大二先生の知遇を得鶴岡市に出で商業に従事せしも後再び兩先生の幹旋に依り上京し、爾來あらゆる勞働に依り自ら糊し其間苦學、遂に中學校を卒業し、青山學院に入り神學部の教程を卒えて松本教會副牧師、中野教會牧師たりしも、學校より米國へ留學を命せられ渡米準備の爲め上京中、偶大正十二年の大震災に遇ひ大に感ずる所あり牧師界を退き民間探偵界に入り爾來四年今日に到る。氏は熱心な基督教信者で、文藝、美術に造詣深く、夫人千代子甲府英和女學校出身一男、一女あり。(事務所日本橋區小網町三丁目鏡河岸三〇號地電話茅場町66一五〇八、一二四五、一二四六、一二四七番)

原籍地 山形市諏訪町二二〇

醫師 柴田信

現住所 東京府南足立郡南千住町八四六

氏は當年とつて三十三才。外科専門の少壯醫學士である。

大正十年東北帝大醫學部卒業。

大正十四年七月現住所に病院獨立開業。

病院には氏の外科の外主任に某醫學博士を聘し、内科を設く。尙耳鼻科(主任は博士)産科婦人科の設置あり。親切鄭寧患者に對して徳稜を以て對するを以て信用厚し。

出生地は北村山郡大久保村。

原籍地 東村山郡長崎町一九一

西洋家具製造販賣

繩野 新太郎

現住所 東京市小石川區原町一〇

電話小石川二八五五番

小石川區原町一〇に聲名ある西洋家具製造販賣店主繩野新太郎氏は長崎町の生れ。誕生年は明治十七年とある。彼の大店舗を仕上げた繩野氏の經歷はどんなであるか。氏に學歷らしきもの殆どなく、郷里に於て家業の西洋家具製造販賣を營み、大に技術を磨くものあり、後卅六年雄心遂に止み難く即ち上京。

明治四十二年神田に於て始めて獨立開業。

大正二年現住地に移轉して大に事業を擴め、今日の隆盛を見る。

氏の人望の一端を知る爲に左に今日の名譽職を摘載する。

東京全市西洋家具同業協會代議員。

々石川區西洋家具同業協會副會長。

有隣生命保險會社代理店。

原籍地 東京府豊多摩郡中野町一五四六

銀行員 丸山 英彌

現住所 原籍地

氏は明治十三年五月廿七日生。原籍は東京府になつて居るが、本縣新庄町の出身である。郷里に於て中學校卒業、更に慶應義塾に入學し、明治卅九年同校法律科を卒業した。同年三菱銀行に入り。同四十一年同行神戸支店に轉じ、大正二年本店勤務。大正八年本店營業部長の重職に就く。堅實にして前途に幾多の未來を藏する少壯銀行家。



原籍地 西村山郡左澤町左澤

機械工具並にオートバイ
自轉車用工具販賣 大塚 熊吉

現住所 東京市下谷町御徒町一ノ七

獨立獨行の人に正規經歷少し。氏もその一人である。

大正九年上京、現在の場所に獨立開業、諸機械、工業用品、オートバイ並に自轉車用品製造並に販賣に従事す。

明治廿六年の誕生だと云ふから今年廿六才働き盛りの若手實業家。將來有望の折紙付きである。

店舗は御徒町目抜き電通通り、日増し其營業の繁昌し來るも無理ではない。

原籍地 東村山郡金井村江俣

音樂家 鏡 富三

現住所 東京市麴町區九丁目一〇

氏は明治廿四年四月生れ。同廿歳の時上京し、陸軍戸山學校へ入學、一箇年の勉學は遂に氏をして音樂家の雛鳥として社會に巢立たしめた。明治四十四年卒業後直ちに戸山學校助教授拜命、大正十三年退職。

現在は個人音樂教授として奮闘しつつあり。

然も氏の將來の志望は刀劍の鑑定にあり。即ち大正六年下谷東黒門町三三刀劍鑑定家本阿彌光遜に就きて刀劍鑑定法を學びて今日に於ては斯界の達人。現に遊就館内の中央刀劍會會員である。

原籍地 東置賜郡犬川村

果物問屋 石田 奇智郎

現住所 東京市神田區佐柄木町一二一

電話神田二二六番



氏は明治卅二年十二月廿四日生。

神田の果物問屋として有名な氏は十二年前上京以來、一意専心、斯業に従事し、現在では押しも押されもせぬ同方面第一流の果物問屋となつた。

氏の取扱ふ果物の中で主なるものは臺灣バナナで其外全國の果物凡てを扱つて居る誠實勉強の間屋として好評あり。

原籍地 西村山郡谷地町下工藤小路

薪炭商 古關 清五郎

現住所 東京市神田區表神保町一〇

氏は明治廿二年二月五日生。

明治卅五年志を立て、上京、神田山出し屋商店に勤務したが、大正九年同商店を繼續し薪炭卸小賣業を營む。

氏は極めて奮闘的な、且つ着實な人物である。

神保町で山出し屋と云へば薪炭商として有名な商店で附近で誰知らぬものもない。

氏は神田薪炭業組合の幹部として斯業の發展に絶へず貢献しつつある。
女子三人ある。

原籍地 山形市小姓町一三九

洋服裁縫業 海老勝治郎

現住所 東京市神田區表神保町一〇

氏性來獨立獨行の人。明治卅九年大に志あり郷里を出で、上京、京橋區淺野洋服店に於て洋服の實地見習をなす。

大正元年思ふ處あり郷里山形市に歸り、大正元年より四年迄洋服裁縫の獨立營業をなし、更に大正四年上京、神田中猿樂町に洋服業を開業。時たまく震災に遇ひ、後現住地に盛大なる洋服業を營む。

明治廿四年八月二十九日生れの活動盛り。
男子一人女四人あり。

原籍地 西田川郡加茂町

齒科醫 和泉田三藏

現住所 東京市四谷區筆筒町四



氏は明治廿年一月廿七日生。

明治四十三年三月庄内中學校卒業。

其後上京して日本齒科醫學專門學校に入り大正元年十一月卒業。直後附屬病院に勤務。

大正二年山梨縣谷村田町に開業。

大正八年現在の場所に開業し、以て今日に到る。

男子二人あり。

趣味は庭球、野球、書畫。

山形縣加茂會幹事。

原籍地 鶴岡市烏井町甲一

眼科醫 進藤周而

現住所 東京市深川區西森下町二〇

氏は明治廿八年二月十九日生。

山形縣立鶴岡中學校卒業。

其後東京醫學專門學校に入り、大正十年同校を卒業した。

卒業後順天堂病院に入る。

其後芝園橋太田眼療院及牛込柳町内藤眼科院等で眼科を専攻した。

大正十五年三月から現在の場所に開業し以て今日に到る。

氏は職務に極めて熱心で患者の氣受も頗る良い。

原籍地 米澤市

東京特許代理局長 内村達次郎

現住所 東京府荏原郡入新井町二六五二

電話大森二六八番

正六位勳六等、辯理士、東京特許代理局長内村達次郎氏は柿崎家雄氏次男にして、

明治元年一月廿八日生。

明治廿三年三月東京高等工業學校機械科卒業。

直に特許局に入り特許局審査官となる。

其後水産局技師、水産講習所教授となり、同卅九年帝國冷蔵株式會社技師長となる。

同四十年歐米各國を視察し、歸朝後辯理士となり、東京特許代理局を創立して、之を主宰し以て今日に到る。

氏は他に入新井町々會議員、有爲會、帝國發明協會理事、工政會、大日本水産工業化學協會、機械學會役員たり。

長男良二氏(三五)東大醫科卒業、慶大病院小兒科に勤務さる。

原籍地 最上郡新庄町

社會事業家 荒喜松五郎

現住所 東京市神田區錦町三ノ二

電話神田一九八五番



氏は明治二年十一月七日生。

長き警官生活に於て勞働係となつて居つた關係上。大正元年辭職して東京勞働保護協會を設立し、事務所を深川區富川町三一に設け自由勞働者の爲め、諸種の社會事業を經營し、就職紹介、或は寄宿教育等に眼め勞働者保護に専心從事した。

震災後現住所に東京勞働保護會の事務所を移轉し氏は相變らず其代表者として専心勞働者の保護事業に従事し、更に前途の活躍を計畫して居る。

社會は氏の今後に期待する所尠少なからざるは云ふまでもなく、氏の聲名既に都下勞働界に籍甚さる。

原籍地 鶴岡市

株式業 兼子春次郎

現住所 東京市芝區二本榎二

明治元年一月八日生。

同十八年上京。青山學院出身。

明治卅五年から株式業に従事し以て今日に到る。氏資性濶達、交遊多し。

原籍地 山形市

洋服商 岡崎源之助

現住所 東京市神田區錦町三ノ二三

明治廿一年七月三日生。

同四十一年上京。種々の事業に従事したが特に洋服裁縫業に就て研究。

現在は主に三越呉服店の仕事を引受けて居るが、一班の需要にも應じて居る。三越の仕事をする位だから氏の腕は慥かなものだ、従つて信用も頗る篤い。

原籍地 最上郡新庄町

三井銀行參事 小林 貞次郎

現住所 東京府豊多摩郡澁谷町中澁谷三八四

電話青山一一四八番

氏は明治十三年生。

山形縣士族次市氏長男。大正五年七月家督相續さる。

郷縣中學校を出で、東京高等商業學校に入り、明治三十五年同校卒業。

直に三井銀行に入る。

其後累進して同行參事の要職に就くに到る。

家族は母堂たけ子、夫人廣子、男信雄、同幸雄、女慶子等。



原籍地 西置賜郡長井町小出一二五二

醫師 齊 藤 又 二

現住所 東京府北豊島郡巢鴨町二〇一八

電話小石川四四五〇番

帝都醫業界の新人齋藤氏は舊米澤藩長井の人である。

幼にして頭腦明晰長するに及び、東京慈惠醫學專門學校に入り明治四十五年七月同校を卒業。

大正二年より同五年六月迄入澤内科教室に實地修業をなす。

大正二年七月獨立して現住地に醫業を開く。

明治廿一年一月廿三日生れ。

氏患者に對して親切丁寧、しかもよく往診の勞を厭はず、爲に近所の評判よく常に寸暇なき迄に宅診往診の活動振をなしつつあり。

原籍地 米澤市アラ町

防 waters 製造業 近藤 吉助

現住所 東京市神田區元佐久間町三

電話下谷三八〇三番

明治卅九年上京後、一時京城帝國防水布商會東京支店詰となつたことがあつたが其後獨立して現事業を營む。營業科目は防水布雨衣、日除天幕、船車用雨覆、防水紙澁紙等で主として陸軍省、鐵道省、逓信監理局等の御用を勤め、其他にも廣く確實の取引店を有し、基礎、信用共に確實なり。

原籍地 東村山郡

小笠原 藤八

現住所 東京市小石川區林町九四

明治元年八月七日生。

同廿三年上京。同卅二年日本大學卒業。

明治卅八年から大正十一年迄母校日本大學及日本醫專の會計事務に従事した。

原籍地 山形市香澄町

帝國海事協會理事 梅村 貞明

日本海員掖濟會理事

現住所 東京市芝區高輪南町三〇

電話高輪一〇一七番

氏は明治元年四月廿七日生。

明治廿五年東京帝國大學法科大學卒業。

同年司法官試補となる。同卅年地方海員審判所理事兼船舶試驗所試驗官となる。

其後北海道逓信局長を歴任。大正九年辭職。

爾後帝國海事協會理事、日本海員掖濟會理事として海事の爲めに貢献さる。

從四位勳四等、日本音樂、謠曲を嗜む。娛樂は圍碁。



原籍地 東村山郡天童町天童

染料商 武藏勇作

現住所 東京市京橋區越前堀一ノ三

電話京橋六六四〇番

氏は明治廿一年十二月廿一日生。

明治四十三年米澤工業學校染織科卒業。

直に東村山郡染織同業組合技手となる。

大正三年四月横濱市オットライメル會社染料部に入りしが、歐洲大戰當時、染料販賣業の有望なるに着目して同社を退き、現在の場所に染料販賣業を開始し以て今日に到る。營業品目は各種染料、各種工業用藥品、雜貨等。

天童町に支店あり。

男子二人、女子三人。

趣味は登山、郊外散策。

原籍地 東置賜郡赤湯町

吳服商 高橋 薫

現住所 東京市下谷區南稻荷町六五

氏は明治廿七年九月十日生。

大正十四年一月現在の場所に吳服商を開業し、盛業以て今日に到る。

原籍地 山形市香澄町櫻小路五三

洋服裁縫店 金澤 嘉助

現住所 東京市本郷區追分町五一

明治廿三年九月六日生。嘉吉氏次男。

明治四十五年七月出京、洋服裁縫業を修業。

大正八年三月現住所に於て開業以て今日に到る。

原籍地 山形市旅籠町五八八

家具製造業 金山永吉

現住所 東京市本郷區元町一ノ一五



氏は明治六年十月生。

氏は郷里に於て同業を營んで居たもので上京したのが明治卅年の事である。即ち上京後着々として事業の擴張を謀り今日に於ては押しも押されもしない同地方の老舗である。

主として椅子を造り、その技倆衆の及び難いものがある。

令息吉平氏亦斯界の人。よく父君と共に家業の繁榮を圖らる。

在郷軍人本郷區會幹事。

因に寫眞は令息吉平氏である。

原籍地 東田川郡廻館

辯護士 相馬昌三

現住所 東京市麻布區我善坊町五〇

電話青山三六二一番

氏は明治十年生、俊雄氏男。

山形縣立庄内中學校卒業。

更に第二高等學校に入り、同校を経て東京帝國大學に入る。

同三十七年三月同大學法科卒業。

直に大學院に入り更に斯學の蘊奧を極め、京都地方裁判所に奉職す。

後退官して辯護士となり、刻下現在の場所に開業し今日に到る。

氏談論風發、然も思慮周匝、辯護士としては最も適才適所と稱せらる。

原籍地 東置賜郡犬川村

實業家 江口 駒之助

現住所

東京府豊多摩郡千駄谷町原宿六四

電話青山一二七三番

氏は安政五年十一月十八日生、萬右衛門氏の長男。

始め米澤興讓館に漢學を修め、明治十二年以來十七年迄、支那に遊び、歸朝後長崎縣廳に奉職、後農商務省に轉じ、商工局社會課長、商事課長等に歷補した。

後幾くもなくして官界を去り、同三十年東京株式取引所に入り、同所支配人となり、同二十六年理事に擧げられ、大正七年迄勤續し大に其發展に努力せらる。同年五月辭職以來同所相談役として今日に到る。

趣味は謠曲、嗜好は讀書。

令夫人頼子、女高子、養嗣子鶴雄氏あり。

原籍地 鶴岡市

齊藤 芳之助

現住所

東京市小石川區關口町一六五

氏は本縣鶴岡市出身。

能樂に興味を有し、能樂雜誌を經營さる。

氏に就て記すべきもの多々あり、他日機會を得て之を記載せん。

原籍地 東村山郡天童町

洋服業 吉田 登

現住所

東京市下谷區七軒町七〇

上京後永く洋服裁縫業を營み、確實な多數の得意を有し、信用厚し。近時更に營業の發展を企てつゝある。

原籍地 山形市香澄町十日町

醫師 根 上 方 次

現住所 東京府荏原郡品川町二日五日市一四八



氏は山形市香澄町の生れ。

久しく山形市第一小學校に教鞭をとり、後志を立て、上京。

刻苦勉學、遂に醫師開業の文部省檢定に合格し、今日に到る。學校出の醫師を凌駕

するの技倆を有す。

専門は内科、小兒科、産科婦人科。

氏は明治十三年八月五日生れ。因に長兄を尙藏氏と云はる。

原籍地 鶴岡市

海軍中將 佐藤鐵太郎

現住所 東京市本郷區駒込動坂町二三一

電話小石川二〇〇番

吾が郷縣、鶴岡が生んだ海軍の偉材佐藤鐵太郎氏の略歴を見やう。

位勳從三位、勳二等、功三級、豫備海軍中將、山形縣土族。

生年 慶應二年七月生。明治六年六月安之氏の養子となり十二年家督相續す。

履歷 明治二十年海軍兵學校卒業、海軍少尉任官、大正五年海軍中將任官。

その間 常備艦隊、第二艦隊各參謀、宗谷阿蘇各艦長、海軍々令部參謀兼海軍大學

校教官、海軍々令部次長、海軍大學校長兼軍令部出仕。舞鶴海軍鎮守府司令長官其後

豫備役に編入さる。氏は軍事以外文藻に富み、著書亦少からず、更に日蓮信者としての氏は我國思想界

に多大の感動を與へつゝあるは世人の知る所あり。夫人艶子(明治九年一月生)小笠原長生子爵令妹。長男基彌太(明治二十年四月生)次

男國考(明治三十九年四月生)女光子(明治四十一年十二月生)。長女千鶴子(明治三十

五年一月生)東京人大村正助氏に嫁す。

原籍地 鶴岡市

東京高等師範學校教授 山内繁雄

現住所 東京市本郷區駒込曙町一六とノ八

正四位、勳四等、理學博士、山内繁雄氏亦郷縣の人。即ち山形縣士族平野成允氏の三男にして明治九年九月を以て生る。先代山内外全氏の養子となり、後家督相續す。明治三十三年東京高等師範學校選科を卒業し、同三十六年東京高等師範學校助教に拜命、同三十七年植物學研究の爲米國に留學し、コロンビア大學、シカゴ大學等に於て研究を重ね、四十年シカゴ大學にてドクトル、オブ、フ井ロソフキイの學位を受け、大學教授に任せらる。

それより獨、佛、和、白、各國を歴遊し、歸朝後東京高等師範學校教授となり、四十四年植物學教授法研究の爲め再び英米に留學し、同年理學博士の學位を授けらる。家族は夫人八重子(明治十五年生、長澤太治兵衛氏二女)長文治子(大正四年生)、養弟善之丞氏(明治三十年生)等。

原籍地 米澤市

畫家 平田榮二

現住所 東京市神田區駿河臺袋町一二

電話神田九一番

前内務大臣、内大臣、伯爵平田東助氏の二男榮二氏は明治十五年二月二日を以て生る。幼より父に似ぬ畫を好み、夙に美術學校に入り明治三十九年四月同校を卒業し、その間川合玉堂に師事す。

明治四十年東京勸業博覽會に、『群雀觀春』の圖を出品して三等銅牌を受けしを始めとし、第四回、第六回文部省展覽會に出品して褒狀を授けられ、第一回、第五回、第七回、第十一回、第十二回共に入選し、第八回、第九回の二回には三等賞を受領。更に第十回には特選となりたり。尙その他賞を受くる事數回、今や本邦斯界に名聲すこぶる高し。
氏號は松堂。正五位伯爵東京府華族たり。尙伊藤祐彦、伊東忠太の二氏は氏の近親に當る。夫人は静子と云ひ、子爵前田利正氏の令妹なり。子息は克己、正治、義温、英助の四男に敬子、玲子の二女。

原籍地 鶴岡市寶町一ノ三七

靴卸小賣業 **鈴木忠治**

現住所 東京市日本橋區青物町二五

明治十年四月十四日生。

菅原金藏氏男、鈴木竹藏氏養子となる。

明治廿二年現住所に於て開業、其後營業益發展し、信用頗る厚し。

原籍地 鶴岡市下魚町

鶏肉鶏卵商 **菅原英治郎**

現住所 東京市下谷區西黒門町一七

電話下谷二五七一番

明治廿四年十一月二日生。

大正三年上京、鶏肉鶏卵商を開店し、努力奮闘、以て今日の基礎を築き上げた。業務日に發展、世間の信用も頗る厚い。

原籍地 山形市旅籠町六四九
醫師 **佐藤徳松**

現住所 東京府北豊島郡巢鴨町一二三〇



氏は明治九年十一月生。

舊姓音山、山形市上町に生る。ドクトル音山金吾氏の實弟。天童町山上佐藤の姓を嗣ぐ。

明治卅二年海軍に入り、大正十二年四月迄海軍々醫として熱誠公務に當つたが、同月考ふる所ありて退職。

同年十一月現在の地に開業。

専門は外科、殊に内臓外科。

實務家肌の人で、患者の信用も厚い。

原籍地 南村山郡東澤村妙見寺一八八内一號

靴製造販賣店 黒木梅三郎

現住所 東京府豊多摩郡中野町中野三九五九

氏は明治廿六年四月七日生。
清作氏三男。

十四歳の弱冠にして上京し、靴製造業の實地見習ひをしたが、其中徴兵適齡で近衛歩兵第二聯隊に入營、一等卒となつて除隊した。

其後再び靴製造業に従業し、大正六年現在の場所に獨立開業し以て今日に到る。

氏は奮闘努力の結果、其の營業頗る發展し、殊に近衛二聯隊、中野電信隊、目白中學校、東京府廳、東京市役所、目黒蒲田電鐵會社等の御用商店として多大の信用を博して居る。

氏二男二女あり。帝國在郷軍人分會評議員の一人である。

原籍地 東村山郡高タマ村清池

國産振興會幹事 山本彌内

現住所 東京市本郷區千駄木町三二四

氏は明治十七年生。山形中學半途にして山形師範學校に入り同校卒業後、第二高等學校で大學入學學力檢定試験を受け、明治四十年東京帝國大學入學、同四十四年同大學政治科卒業、更に大學院に入り經濟學特に經濟政策を専攻した。

大年元年カーネギー國際平和財團支部の我國に設置せらるゝや、氏は其幹事となり同九年迄勤續し、極力之が趣旨の貫徹に馳めた。其間阪谷男を學長とせる專修大學の講師となり、大正四年より九年迄は明治神宮奉贊會(總裁伏見宮殿下、會長徳川公爵、副會長阪谷男)庶務課長に就任して大に同會の爲めに盡す所があつた。

大正九年後種々の事業に關係したが、昨十四年國産振興會(會長阪谷男)の創立せらるるや氏は推されて其幹事となつた。外に東洋協會大學經濟學講師たり。

原籍地 鶴岡市

内外食料品商
喫茶店

山口 弘次

現住所 東京市芝區白金臺町二ノ三〇

電話高輪一六〇七番

氏は元治元年八月廿六日生。

嘗て福島縣屬官となり、十三年も勤務した。其れから大藏省に十餘年間任官し、更に日本勸業銀行員として前後十五年間勤務し、昨十四年退任した。

本年二月から現在の場所に山口食料品店を開き、内外食料品一切其他罐詰菓子等の販賣をなし、併せて喫茶部を經營することとした。

開店日尙淺きにも拘はらず、營業は日増しに發展し、附近一流商店に此の遜色ない繁昌振りを示して居る。

實生流の謠曲は氏の最も得意とする所。

原籍地 米澤市

東京モスリン紡績
専務取締役 登坂 秀興

現住所 東京市麻布區霞町一

電話青山五〇九番



東都實業界一方の雄登坂秀興氏は本縣米澤の人。明治四年六月七日右膳氏の長男として生る。明治廿七年東京高等工業學校染織科卒業。直後投資者を得て絹洋傘製造を始め、明治廿八年農商務省現業練習生として佛國リオンに渡航、殊に絹織物の視察に意を用ひ赴任す。同年米澤織物技師長となり、後桐生織物株式會社支配人兼工場長として赴任す。八年農商務省囑托となり、清國織物業視察に出張、四十年日本製布株式會社副支配人に擧げられ、更に四十四年轉じて東京モスリン紡績株式會社に赴任し、技師長となり夫人シヅ子は東京女高師附屬高女卒業、養嗣子貞夫氏慶大理財科出身、日本棉花會社に在勤する。氏は他に藏前工業會、工政會、米澤有爲會各社團法人幹事たり。趣味は圍碁。

原籍地 米澤市

鐵道病院醫長
醫學博士

梅津 小次郎

現住所 東京市日本橋區坂本町二八

電話浪花三九八八番

永く鐵道病院醫長として有名な醫博梅津小次郎氏は本縣米澤市の出身。

郷里に於て、小學、中學を卒業。更に仙臺第二高等學校に入り、明治三十八年同校卒業。

次で東京帝國大學に入學、同四十三年同大學醫科大學皮膚科を卒業した。

其後鐵道病院に入り、長く皮膚科醫長として診療に従事さる。

醫博の學位を授與さる。

原籍地 米澤市

法學博士 淺見 倫太郎

現住所 東京府豊多摩郡淀橋町角筈六六六

氏は明治元年十二月十日生。

省吾氏(號飯峯)長男。

幼より學を好み嚴父と共に東上、塩谷時敏の晩香塾に學ぶ。

明治十七年司法省法學校生徒となり、進んで東京帝國大學入學、同二十五年法科大學佛法科を卒業す。

直に司法官試補に任せられ、後判事、檢事となる。

其間大學院入學、斯業の蘊奥を極む。

明治三十七年統監府法務院評定官、同四十二年朝鮮總督府判事に任せられ高等法院判事となり、後宮内省に就任し圖書寮囑托となる。

法學博士の學位を授けられ、刻下廣大拓大の教授たり。
夫人やゑ子。

原籍地 西置賜郡長井町

醫 齊 藤 又 二

現住所 東京府北豊島郡西巢鴨町二〇一八

電話小石川四四五〇番

氏は明治二十一年一月二十三日生。

郷里に於て普通教育、中等教育を卒えて、東上、慈恵醫專に入る。

明治四十五年同校卒業。

直後東京帝國大學入澤内科に勤務、偏に斯學の濫奥を極め、且つ其實地に就ても充
分修得する所あつた。

其後現在の場所に獨立開業、以て今日に到る。

原籍地 米澤市元東馬口勢町三三六

毛織物直輸入商 サンテール 鰐 淵 達 三 郎

現住所 東京市京橋區出雲町二

明治六年十月廿八日生。夙に郷校に學び、後上京、明治三十九年共同火災保險株式
會社の創立に參與し、入りて社員となり、累進して庶務課長となる。
大正十三年四月現住所毛織物直輸入商を開業して今日に到る。
洋服部 京橋區銀座通出雲町停留場前(電話銀座二七五番)
羅紗部 京橋區出雲町一四(電話銀座二六九四番)

原籍地 西田川郡大山町向町

官 吏 田 中 啓 治 郎

現住所 東京府豊多摩郡淀橋町柏木七一

明治廿九年五月十日生。

亡傳治郎氏次男。中學卒業。

山形縣立庄内中學卒業。
大正七年上京。陸軍省醫務局に勤務し、以て今日に到る。

原籍地 山形市三日町

蒲團 岡崎貞治

現住所 東京市本郷區春木町二ノ一(電話小)

本郷春木町で出羽屋蒲團店と云へば誰知らぬものもない極めて盛大な買ひ心地の良い商店である。貞治氏は明治三年十月十四日生。八年十月十日、翌年開業したの場所であるから、業のだから今日に於ては基礎も信用も充分であるのは云ふまでもない。

創業既に十餘年を逆る。此順前に氏の營業が發展し來つたのだから今日に於ては基礎も信用も充分であるのは云ふまでもない。男子二人、男子一人あり。男子は慶應義理財在學。長女は十年以來川端龍子に就て日本畫を學び出藍の譽れある。



原籍地 米澤市

會社重役 鈴木誠作

現住所 神奈川縣三浦郡葉山村堀内九二六

大湊興業、大湊木材會社の取締役、鈴木誠作氏亦郷縣の人。

氏は郷縣士族鈴木忠和氏の二男に生る。誕生は慶應二年十一月十日。氏後年、明治三十一年七月兄幸松氏の養子となる、同年家督相續せり。

學業は明治二十四年の東京帝國大學法科大學政治科卒業。鐵道院囑托となりし事ありしが後實業界に入り、今日の大をなせり。

氏は剛健にして果斷、意志一たび決せんか飽くまで其目的を貫徹せずんば止まざるの概あり。氏の今日ある一に其性格の然らしむる所なり。

家族は夫人はな子(明治九年生)男格(明治三十年十月生)女貞子(明治三十五年生)同操子(明治三十七年生)男新納(明治三十九年生)女道子(明治四十五年生)等。尙長女のぶ子、次女てるの子、三女せつ子の三女は既に他に好せり。

家族は夫人はな子(明治九年生)男格(明治三十年十月生)女貞子(明治三十五年生)同操子(明治三十七年生)男新納(明治三十九年生)女道子(明治四十五年生)等。尙長女のぶ子、次女てるの子、三女せつ子の三女は既に他に好せり。

原籍地 鶴岡市

特許局技師 上野長雄

現住所 東京府豊多摩郡澁谷町中澁谷五二八ノ四

電話青山七〇八五番

從五位勳五等、特許局技師兼燃料研究所技師、特許局化學電氣部長兼化學課長、山形縣平民上野長雄氏は先代漸氏の三男にして慶應三年二月の出生である。左にその略歴を摘記して見やう。

明治二十九年家督相續。

明治二十三年七月高等工業學校應用化學科卒業。

滋賀縣立商業學校、富山縣立工藝學校、同縣農學校各教諭歷任。後鑛山監督署技師、礦務技師を経て今日に到る。

家族は夫人あい子(明治元年四月山形縣士族菅原美靜氏四女)との間に男忠夫(明治三十年八月生)女富子(明治三十四年一月生)長女利子(明治二十六年生)は山形縣人田邊昭氏に嫁し、次男義雄(明治二十六年生)は石川縣人治氏養子となる。

原籍地 山形市小姓町一三九

オリエンタル寫真工業株式會社技師長 菊地東陽

現住所 東京府豊多摩郡落合村六〇四

氏の生家は山形市に於いて寫真業を營んで居られた。氏幼にして家業を繼いだるが、生れ乍らにして廣濶世界を呑むの概ある氏である。即ち物々の雄圖止み難く年廿一才にして奮然渡米の途に上りニウヨルクに渡航し、そこに寫真業を開いて研究を極めた。氏の才非凡幾くもなくして技術的寫真家としての第一流の名聲を博したが、氏はそれだけでは飽かなかつた。更に寫真用の印畫紙エモーションを發明し、大正八年歸朝するやオリエンタル寫真會社を創立し、氏自らその技師長として活動されて居る。今や吾國に寫真の流行、寫真術の必要益多々である。氏亦明治十六年生れの活動盛りである。氏の如き正に吾が寫真術の恩人とも見るべきであらう。尙同會社は我國に於て寫真化學會社として成功した最初且つ唯一の會社であつて其製品は舶來以上の定評あり。

原籍地 米澤市

拓殖局長官 黒 金 泰 義

現住所 東京市本郷區駒込淺嘉町七〇

電話小石川七八七番

氏は慶應三年七月を以て生る。米澤藩士族黒金泰乘氏の長男。

山形縣立米澤中學卒業、高等學校を経て東京帝國大學に入り、明治二十九年同大學英法科を卒業す。

直後職を官に奉じ、警視廳屬とをり、明治三十一年警視に昇進。

爾來山口、栃木各縣警察部長に歴任し令名あり、再び警視廳に轉じ、同四十年北海道廳事務官に任せられ居ること六年群馬縣知事となる。

政變に依り一時桂冠せしも大正二年大隈内閣の出現と共に大分縣知事となり、其後原内閣出現と共に辭職し、加藤内閣組織せらるゝや拓植局長官の榮職に就く。

嘗て米澤市より選出せられて代議士となる。山形縣憲政派の重鎮なり。夫人はや子、令甥泰雄氏を養ふて嗣子とす。



原籍地 南村山郡上ノ山町鶴脛町四〇七

陸軍騎兵大尉 渡 邊 謙 太 郎

現住所 東京府荏原郡世田ヶ谷町下北澤

三八五

氏は明治廿七年十一月十日生。

明治四十二年仙臺陸軍幼年學校に入學。

大正五年陸軍士官學校卒業。

同年騎兵少尉任命。

其後累進して騎兵第一聯隊副官陸軍騎兵大尉となる。

夫人愛子との間に長男宏一、長女房子、次女咲子の一男二女あり。

原籍地 飽海郡酒田町

會社員 齊藤清六

現住所 東京府北豊島郡長崎村地藏堂一〇五一

氏は明治二十五年十月十五日生。

早稻田實業學校を卒業した後、早稻田大學に入り、大正五年同大學商科を卒業した。卒業後日清火災保險會社に入社し、爾來勤續して保險業の實地研究をしたが、昨十四年十一月豊國火災保險株式會社に聘せられ、同社東京支店に入った。

爾來同社勤續中。
趣味は圍碁。

原籍地 米澤市

東京瓦斯會社 供給課長 木村源太郎

現住所 東京府豊多摩郡淀橋町角筈一七三

東京瓦斯供給所社宅

氏は明治十三年一月生。

山形縣立米澤中學校卒業後、仙臺第二高等學校入學、明治卅六年卒業。續いて東京帝國大學に入り、明治四十年同大學工科大学應用化學科卒業。卒業後仙臺瓦斯會社に入り、同會社技師長として同社の發展に努力す。現在は東京瓦斯株式會社供給課長の榮職にあり。

原籍地 西村山郡寒河江町

安田保善社 佐島啓助
社會課長

現住所 東京府荏原郡目黒町中目黒九四六

電話高輪五五一九番

氏は西村山郡寒河江の出、山形縣立山形中學校卒業後、仙臺第二高等學校第二部に
入り、明治廿九年同校卒業。

續いて東京帝國大學に入り、明治卅三年同大學理科卒業。

其後島根縣師範學校教諭となり、更に大阪高等工業學校教諭に轉任さる。

幾くもなくして氏は教育界を退き、大阪基督青年會幹事となり、専心同會の發展に
努力され、敬虔なる一基督教徒として同地方青年に及ぼせる氏の感化は意外に廣く且
つ深きものありき。

昨年安田保善社より迎へられ、社會課長の重職に就き以て今日に到る。

原籍地 西村山郡本郷村本郷

帝國火災豫防協會 鈴木泰
事業部長

現住所 東京府北豊島郡高田町雜司ヶ谷水久保一
八五

氏は長く村長であつた太仲氏次男、明治二十年三月生。
氏は弱冠にして函館に赴き、米雜穀商、菓子問屋等を營んだが、大正十年上京した。
上京後は種々の事業に關係し、何れも相當の成功を見たが、現今は帝國火災豫防協
會事業部長として、唧筒の販賣に敏腕を揮つて居る。時宜に投じた事業なので其賣行は
日に増し増加し、事業は益發展の氣運に向つて居る。

原籍地 鶴岡市最上町甲三一

銀行員 廣木茂雄

現住所 東京府北豊島郡瀧野川町中里一二八

明治卅二年十二月十六日生。

庄内藩士、父君四方吉氏は長く小學校長として令聞あり。
大正八年二月出京、鐵道省新橋運輸事務所奉職。
同十二年安田銀行に入り現在は本店詰。

原籍地 飽海郡酒田町

實業家 五十嵐 榮一

現住所 東京市麴町區三番町二八



明治六年十月十二日生。

同卅六年保險銀行界の機關として保險銀行新聞を創立し、大に斯業の發展に貢献する所あり、同四十年十一月東洋新報と改題し、社業益發展した。

同四十一年實業通信を創立した。

其前明治卅九年我國の富力を調査し、大隈伯の校閱を経て『日本の富力』と題する一書を公刊し、少からぬ利益を世人に與へた。

大正十年新聞事業を他に譲り、新に實業界に飛躍し、刻下東洋金網製造株式會社專務、東京印刷荷札株式會社社長として經營に従事す。更に國民實踐會を創立、其第一次事業として『教育勸語義解』を公刊した。男吉郎氏(三〇)は三井銀行勤務、他に女喜代子(一八)あり。

原籍地 飽海郡酒田町濱町

實業家 池田 龜三郎

現住所 東京府荏原郡大井町庚塚四八六八

電話大森三六八番

氏は明治十七年五月廿一日生。

山形縣士族池田龜藏氏六男。

生家は商を業とす。然も氏幼より學を好み。小學、中學、高等學校を経て東京帝國大學工科大学入學。

明治四十二年同大學採鑛冶金科卒業。

直に三菱會社に入り、福岡縣方城炭礦、新入炭礦、佐賀縣相知炭礦等を経て大正六年北海道大夕張炭礦長として赴任し、同十年更に美唄礦業所長として美唄鐵道會社の取締役を兼ね、雄別炭礦鐵道各株式會社取締役、北海道鑛業會理事、三菱鑛業株式會社參事、美唄礦業所長等の重職にある。夫人ヒサ子、内助の功少からず。

原籍地 南村山郡上ノ山町

日本畫家 湯原柳畝

現住所 東京市本郷區動坂町三二七

氏は明治十八年三月十三日生。
湯原彌三郎氏の長男。

幼より繪畫を嗜み、進んで畫家たらんと志し、上京日本畫家の重鎮荒木十畝氏の門に入り、専心畫道を修め、進境頗る著しきものあり、其作品を出品して諸方面の會より授賞せらるゝもの頗る多かりき。

其後精進倦まず、不斷の努力、研究の結果、本縣出身畫家中の錚々たるは勿論、日本畫壇に於ても優に他の大家と比較して遜色なきの今日の進境を見るに到る。

然も氏の前途更に發展の餘地多きは何人も之を認むる所、今後の氏は將に刮目して見るべし。

原籍地 東村山郡天童町老野森七七

藥劑師 渡邊眞吉

現住所 東京市赤坂區青山北町六ノ四六

電話青山一〇三六番

氏は明治十年一月一日生。東村山郡天童町爲助氏長男。

同氏の生家は土地の舊家で藥店である。明治三十六年九月上京して上野藥學校に學び、同三十七年十一月文部省藥劑師試験に及第し、歸國家業に従事したが更に志を立て、上京。

明治三十九年赤十字社病院に奉職藥劑事務を擔任した。

明治四十二年獨力現在の地に開業。其後不斷の努力と、機敏な營業振りとでめき／＼發展し、青山六丁目目抜きに於て居る。於る白煉瓦三層樓の氏の藥舖は最も雄辯に氏の今日の成功を物語つて居る。氏は赤坂區々々會議員(大正六年以來)赤坂區慈善會評議員、赤坂區徵兵慰勞會評議員、青山南北六丁目町會總代、赤坂區青年團評議員、東京賣藥同業組合代議員、同赤坂支部長、東京藥局會赤坂會長、東京府藥劑師會代議員等の公職を有し、其他區の公共的支部長、東京藥界の事大小となく關係せざるものなし。

二男四女あり。



原籍地 飽海郡稻川村庄泉一五

東京鐵道
學校主事 伊藤 政治郎

現住所 東京市麴町區上二番町二二

氏は明治二十六年八月十六日生。
郷里遊佐小學校を卒え、やがて徴兵適齡として近衛歩兵第二聯隊に入隊、除隊後日
比谷中學の五年編入試験に及第して入學し種々苦學したがやがて首尾よく同中學を卒
業した。

大正七年更に明治大學法學部に入學し、同十二年同校を卒業し、卒業後は國際法、
憲法の研究に没頭して居つたが、其傍ら東京鐵道學校を設立して自ら其主事として經
營の衝に當つた。同校の校長は工博古川要次郎氏で、郷里の苦學生で氏の後援に依り
同校を卒業したものは頗る多い。尙同校の設立に就ては郷縣の先輩宇佐美前東京府知
事や熊谷代議士等も極力後援の勞を取られた。
夫人文子(二五)、趣味は旅行。

原籍地 最上郡新庄町

横濱市助役 檜 岡 徹

現住所 横濱市外城郷村六角橋

氏は新庄藩士清水氏の家に生れ、後檜岡秀登氏の養嗣子となる。

明治卅六年山形中學卒業。

其後外國語學校に入り同校卒業。

内務省に入り、暫らく官界生活をなせるも感ずる所ありて官界を退き、長崎市助役
に選出さる。

更に横濱市助役芝辻氏(山形市出身)の後を繼ぎ現に同市助役たり。

春秋に富む同氏の前途の發展は將に刮目して見るべきものあるべし。

原籍地 山形市

會社員 芝 辻 正 晴

現住所 東京府荏原郡馬込村清水窪三七〇七

氏は山形市出身で、山形縣立山形中學校卒業後、第二高等學校を経て、京都帝國大學に入學。

大正二年同大學法科卒業。

卒業後巖手縣事務官となり、更に外務省に入り、英國大使官附として同地に赴任し二等書記官に迄昇進したりしも、感ずる所あり、外交界を引退す。

其後横濱市助役となる。

現今東京電力株式會社(永樂ビルヂング内)に勤務さる。

夫人は安田保善社 社會課長佐島啓助氏の女。

原籍地 西田川郡東郷村成田新田甲二二一

据風呂製造業 吉村 富治郎

現住所 東京市四谷區片町三

氏は明治十五年二月九日生、亡辰吉氏長男。

郷里に於て學業を修め、後酒田町に出で、鍛冶職を見習ひ、明治卅八年に上京した。時偶々日露戰爭の勃發せるに際會し、氏は陸軍經理部に志願して從軍し、要塞司令官より賞狀を賜はる。

明治四十二年現在の場所に据風呂製造業を開業し、電氣及瓦斯風呂の外芳川式無煙風呂(專賣特許)の製造販賣をして居るが之は東京で風呂釜の元祖とも云ふべきものであつて發明當時は荷車に風呂釜を取付け東京市中廣告して廻つたと云ふ珍談もあつたが、今では廣く世間に知られ、使用されて居る。

二男三女あり。

原籍地 西村山郡谷地町長表乙二二二

鼻緒商 茂木久三郎

現住所 東京市浅草區今戸町八二

明治廿九年十一月廿五日生。

故久助氏三男。

大正九年十月廿三日、感ずる所ありて出京、諸方で備に現業を修得した。大正十一年十月現在の場所に開業したが、氏の真面目と勤勉とは少からず世間の信用を博し、業務益繁榮に赴いて居る。一子あり。

原籍地 山形市七日町

洋食店 柴田彦太郎

現住所 東京市本所區若宮町二四

明治十五年一月卅日生。嘗てオリエンタル寫真工業株式會社に四ヶ年勤務した。其後本所にカフェーを開店し日を遂ふて業務の繁榮を見んとしつゝあり。

酒商

原籍地 東京府北豊島郡高田町雜司ヶ谷一八三



現住所 同上

氏は明治廿二年九月廿五日生。

戸籍は東京にあるが氏は本縣上ノ山出身である。

廿餘年前上京。

彌生毛織會社に勤務。

其後獨立して現在の場所に酒類卸小賣商を營み、營業極めて順調に發展して居る。

氏は他に大正生命及日本教育保險代理店、新日本及大洋火災保險代理店、中央無盡株式會社出張所、町民會評議員たり。以て氏の信用如何に篤きかを知るべし。

原籍地 飽海郡松嶺町

實業家 石渡 幸之輔

現住所 東京市麻布區富士見町九

電話高輪六〇〇五番

氏は慶應元年八月生。石渡又三郎氏の三男。

夙に剣道を學び、後學に志し、上京國學院に入り國典國史を學ぶ。

同校を出で更に佐渡御料局支應鑛山學校に入り、明治二十六年卒業。

直後時の朝鮮鑛山局顧問長谷川工學博士に隨行して同地に赴き同局補佐官となる。

偶王妃事件に關係したるを以て職を辭し歸朝するに到つた。

其より砂金、鑛山業を營み、又三菱鑛山部に入り生野銀山の經營に従事したるも幾

くもなくして之を辭し、爾來發明に熱中し、現に人工象皮調帶、石渡煉木地、人造紙

人造大理石、ペーパーセレード、石渡式安全ソケット其他二十餘種を發明し、市内第一

流の電氣業者と稱せられて居る。氏は本縣の生める企業家中の雄なるものであつて其鬱勃たる霸氣はあらゆる困難を

常に突破せざれば止まざるの概あり。

原籍地 鶴岡市

實業家 石川 清

現住所 東京市麻布區廣尾町三三

電話高輪五〇一二番

氏は明治五年九月生、輝璋氏長男。

廿一歳の弱年で北米合衆國に留學、同地在留すること五年、刻苦精勵、遂に其の業を卒えた。

其の後に歐洲に渡航し、明治廿九年歸朝し、村井兄弟商會に入りて仕入部長の重職に就き、同卅一年同商會代表者となつて渡米、英米煙草會社と合同の契約を締結して歸つた。村井が今日の大をなしたのは之に始まるので主として氏の畫策宜しきを得たのであるや云ふまでもない。

後明治貿易會社を創立し、雜貨輸出入業を經營し、村井貿易會社、明治貿易會社、株式會社日華信託公司等の各取締役、日本製造化學會社代表社員となる。現在株式會社服部時計店取締役。夫人喜世子。

厚籍地 西置賜郡鷺桑村

辨理士 加藤源松

現住所 東京市麴町區麴町八ノ二二

電話四谷二〇八九番

氏は明治六年七月十五日生、源内氏二男。

山形縣立山形中學校卒業。

後中央、明治兩大學に學ぶ。

明治二十九年高等文官試験に及第し、翌年司稅官に任じ高等官に叙せらる。

爾來長崎、大阪、秋田、新潟、松本、長野の各局に歷任した。

後若槻藏相より拔擢され東京稅務監督局に榮轉、次で福岡樟腦事務局長に補せられ

專賣局撫養收納所長、南穂專賣局支局、仙臺專賣支局を経て水戸地方專賣支局長に任

命さる。日露戰役の功に依り、勳六等瑞寶章に叙し、金三百圓を賜はる。

刻下現在の場所に辯理士開業。

原籍地 最上郡新庄町

印刷業 岸貞藏

現住所 横濱市福富町三ノ六九

電話長者町 七〇七番
二五六八番



氏は明治十九年八月生。

明治卅七年横濱商業專修學校卒業。

直後同市吉本印刷所に於て十餘年間實地印刷業を修業する所あつた。

而して大正二年現在の場所に獨立開業し、爾後努力奮闘以て同市第一流の印刷所た

るまでの今日の地位に漕ぎ付けたのである。

營業は各種印刷業一班で、諸官省、實業會社方面に多數の確實なる得意を有す。

又氏は東京築地活版製造所と特約し、各種活字、印刷諸材料一切の販賣をなす。

横濱印刷業組合幹事たり。

原籍地 東置賜郡犬川村

會社員 江口 鶴雄

現住所 東京府豊多摩郡千駄谷町原宿六二

電話青山一六八三番

氏は郷里に於て普通學、中等教育を卒え、第二高等學校を経て東京帝國大學入學。明治四十三年同大學工科學卒業。

直に東京瓦斯株式會社に入り、技師として勤務以て今日に到る。

氏は同會社在勤十數年に及び、瓦斯會社今日の繁榮を來せる亦氏の努力與つて力あり。従つて内外に信望厚し。

原籍地 鶴岡市

帝大講師 寺島 成信
經濟學博士

現住所 東京市牛込區南榎町六四

電話牛込四四八五番

氏は明治二年七月生。成則氏三男。

明治二十二年慶應義塾大學卒業。

直後海軍參謀部編纂課に入り、明治三十年日本郵船會社に聘せられ、後幾くもなくして日露戰役となるや、大阪支店の助役として功を現はし、三十九年本社に歸り、監督課助役として其職に努力し、其後累進して同社參事となり、業務調査部長となつたが昨年同社を辭した。

氏は經濟學博士の學位を有し、斯學に關する造詣深し、夙に帝國大學、慶應義塾講師として其蘊蓄を披瀝したが、現に帝國大學經濟部講師である。

夫人貞子は駒林廣運氏の女。

原籍地 最上郡新庄町

農學博士
蠶業試驗場技師
平塚秀吉

現住所 東京府豊多摩郡杉並町高圓寺一九五

氏は明治十四年生。現東京府知事平塚廣義氏弟。

郷里の中學校を卒え、仙臺第二高等學校に入り、明治四十一年同校第二部卒業。進んで帝國大學農科大學に入る。

農藝化學を専攻し、明治四十四年同大學農科を卒業す。

幾くもなくして農學博士の學位を授與せらる。

農商務省に入り技師となる。同省の二省に分るゝや氏は農林省に入り蠶業試驗場技師として本縣蠶業界に寄與する所大なり。

原籍地 東置賜郡和田村一二二九

慈惠會醫院
醫學士、醫
平龜二郎

現住所 東京市京橋區南鍋町一ノ四
電話銀座五八四番

明治廿年八月廿二日生。

大正八年東京慈惠會醫院醫學專門學校卒業。
本田耳鼻咽喉科病院(醫學博士本田雄五郎氏經營)に勤務し今日に到る。

原籍地 鶴岡市

實業家 平林三郎

現住所 東京府荏原郡入新井町新井宿不入斗二四
電話大森一四七八番

氏は明治四年八月廿六日生。

山形縣立鶴岡中學卒業。
磐城セメント株式會社營業部長、王子煉瓦株式會社、日本精密螺子株式會社取締役

等の重職にある我國有數の實業家にして社會の信用亦頗る厚し。
氏に男一人、女一人あり。長男は中學、長女は高等女學校在學中。



原籍地 西村山郡七軒村貫見三二

會社員 松田通也

現住所 東京府豊多摩郡淀橋町柏木三一
八

氏は明治廿八年二月三日生。大正二年山形縣立山形中學校卒業。

同八年東京商船學校航海科卒業。

卒業と同時に東洋汽船株式會社に入社し、同十二年同社神戸支店在勤、外事監督を擔當さる。

同十三年八月同社を退社し、帝國海上火災保險株式會社に入社し、約一年海務課に勤務し、其後海上營業部に移り船舶課に勤務し、今日に到る。

夫人桂子との間に一女あり。

趣味はテニス、ボート。

原籍地 西村山郡谷地町乙四三

會社員 工藤榮藏

現住所 東京府荏原郡碑衾村碑文谷三四六

氏は殆ど獨學、獨住で今日の地位を得られた。

即ち明治四十四年に東京工科學校電工科を卒業される迄の氏の努力生活は誠に一篇の立志傳である。四十四年同校卒業後直ちに現東京瓦斯株式會社經理課修繕工場に技手として入社、重に變壓器作業と云ふ大責務を盡されつゝある。

明治十七年一月三日生。

原籍地 西村山郡左澤町左澤

銀行員 大西一郎

現住所 東京市芝區三田四國町二ノ一

氏は明治五年十一月五日生。

上京後卅年を経過し、氏は此間種々の事業經營にも従事したが、一方に又よく郷黨の子弟を世話した。記者の聞く所だけでも氏の厚意で今日の地位を得たと稱する人は頗る多い。

現在は川崎銀行員。
其他幾多の名譽職を有す。

原籍地 西田川郡加茂町二六〇

會社員 土屋友治
二等運轉士

現住所 東京府荏原郡調布村鶴ノ木二五〇

氏は明治十一年五月廿二日生。

明治廿六年上京、海上生活に入らんとし先づ品川高等海員養成所に入學した。

首尾よく同所を卒業後、明治四十二年二月廿六日遞信甲種二等運轉士試験に合格、直に東洋汽船會社に入社す。

明治四十三年彼の有名な南極探險船開南丸運轉士として出向する爲め、一時東洋汽船を辭し、同年十一月廿八日品川灣を發航したことがある。

其後再び東洋汽船に入社し、歐洲戰亂當時には危險區域の航海に出航し、備に辛酸を嘗めたが、目下は東洋汽船の航海課に勤務して居る。

三女あり。本年七月卅日放送局で『氷山』と題する一場の講演をした、

原籍地 飽海郡松嶺町

島田忠堯

現住所 東京市本郷區駒込千駄木町二一〇

氏は慶應三年三月三日生。

山形縣松嶺舊藩主子爵酒井忠匡氏實弟で、明治三十二年七月三十一日島田忠英氏の養嗣子となる。

忠英氏は舊幕臣である。

原籍地 米澤市上花澤小國町二二五六

官 吏 平野直方

現住所 東京市本郷區駒込動坂町二九

明治卅六年六月六日生。

象軒學人の長子。

大正九年日本大學中學校卒業、文部省に入り大臣官房秘書課勤務、以て今日に到る。

原籍地 山形市

葦原義道

現住所 東京市麻布區笄町二五

氏は明治十七年十二月一日生。

明治四十四年曹洞宗大學卒業。

山形市七日町長源寺住職たること十六年、地方教界の爲めに貢献したこと少くないのは今尙世人の記憶に新なる所。其後上京して、麻布長谷寺に入り、本年六月には大本山永平寺副監院に任命、同時に祖禪師六百五十年大遠忌事務局會計課長の重任に就いて居る。趣味は活花。



原籍地 山形市柳町

大商店主 大澤 奇 四 郎

現住所 東京市京橋區南鞘町二九

電話京橋三六九〇番

氏は明治廿七年三月廿日生。

十七歳の弱冠にして志を立て、上京し、居ること僅に五年、廿三歳にして既に獨立開業したのを見て、氏が如何に年少時代から非凡の手腕の持主であつたと云ふことが誰にでも首肯される。

其後氏の苦心、氏の奮闘の結果は充分酬みられて、現今では前記の場所に各官省を主なる相手として和洋紙文房具の販賣をなし、更に印刷業をも兼ねて居る。相手が相手であるから氏の營業が極めて確實性に富み、従つて日一日堅實に發展し、今日の盛況を見るに到つたことが分る。

原籍地 東村山郡天童町

辯護士 柳 澤 重 固

現住所 東京府豊多摩郡代々幡町代々木山谷一五

電話四谷一〇七六番

氏は文久二年四月五日生。

山形縣士族神谷貞道氏三男にして貞廣氏弟、先代重遠氏の養子となり、明治十一年十一月家督相續。

夙に和佛法律學校に學び、同校を卒業後、明治十九年十二月判檢事登用試験に及第し、同二十年末判事試補となる。

爾來福島地方裁判所豫審判事、宮城控訴院部長、福島地方裁判所長、札幌地方裁判所長、大審院部長等を経て、大正十二年退職、爾來辯護士を開業し以て今日に到る。

養婿淳氏は東京帝國大學法科卒業後、辯護士となり、目下自宅及び四谷區筆筒町二六に辯護士事務所を設け法律事務を取扱ふ。

原籍地 最上郡新庄町

豫備陸軍少將 檜岡 金次郎

現住所 東京府北豊島郡高田町目白上リ屋敷三五

五九

正五位勳四等功四級豫備陸軍少將檜岡金次郎氏の略歴を左に

明治元年六月六日生。

郷里の小學校を卒え、中學校より、陸軍士官學校入學、明治十九年六月同校卒業、

同時に砲兵少尉に任ぜらる。

爾後累進して大正二年八月陸軍少將となる。

其間東京灣、下ノ關各要塞砲兵聯隊隊長、砲兵工廠々員、同製造所長、陸軍兵器

本廠審査官、重砲兵第二聯隊長、陸軍技術審査部審査官、同議員となる。

日露戦役に功あり、功四級金鷄勳章を賜はる。

夫人佐知子は新潟縣銀林氏の出。
五男一女あり。

原籍地 東田川郡齊村遠賀原三

教育相互協會 齊 藤 榮 治

現住所 東京市本郷區東片町九四

明治十六年九月廿五日生。
現在の氏は教化事業の爲めに日夜没頭され、傍ら教育雑誌の編輯に従事さる。著書として『辯證論的教授原論』『讀方教授の理論と實際』の著書あり。尙引續き著述に従事中。

原籍地 飽海郡西遊佐村藤崎二七

官 吏 白 井 三 郎

現住所 東京府北豊島郡瀧野川町一六六三

氏は明治二十六年十月十五日生れ、舊庄内藩主酒井忠徳公を輔けて致道館を興した名門白井太夫重行の六代目に當つて居る。
氏は不幸幼少にして父兄を失ひ、故郷にあつて老母に奉養して居つたが大正六年四月上京、中央電信局書記となり、勤續今日に及んで居る。
夫人は酒田本町二丁目鈴木義之氏長女、一男一女あり。



原籍地 鶴岡市

擊劍家 佐藤義遵

現住所

東京府荏原郡入新井町新井宿山
王二三三五

氏は明治六年四月十五日生。

氏は天性剣道に勝れ、十歳の幼年時代より剣道を修業し、大成して宮内省東宮警視を奉職し、既に廿五年以上勤務さる。

擊劍教士としての氏の名聲は天下に名高く、現在では立正大學、國學院大學、其他會社方面に教授の勞を取られ、日本武士道の鼓吹に日夜努力せられつゝあり。

長男義勇氏本年三月帝大工科を卒業し、目下札幌鐵道局運輸課に勤務し、次男義臣氏は商船學校卒業目下日本タンカー株式會社に勤務す。

外二女あり。

原籍地 東村山郡天童町

日本畫家 豊田天來

現住所 東京市本郷區東片町七七

氏は明治元年一月十一日生。
通稱字三郎、天來と號す。

幼より畫筆に親しみ、上京、東京美術學校入學、明治三十年七月同校日本畫科を卒業す。

次で故橋本稚邦翁の門に入り、親しく翁の師事を受け、同門の逸材と稱せらる。山水人物を得意とし、畫壇一方の雄となる。師翁歿後復た師を求めず、獨自己の工夫をして精進し、近來特に渾熟の域に到達せり。

氏交遊最も廣く、常に人に謀りて懇切、郷黨の人望最も厚し。

原籍地 山形市香澄町

土木建築 請負業 太田 穂積

現住所 東京市小石川區宮下町五一

電話小石川五八八〇番
同七九三一番

氏は明治廿三年十二月廿八日生。

山形縣立米澤工業學校卒業。

明治四十二年三月上京して戸田組に入つて、其手腕は充分斯業者に認められた。

今十五年一月に到つて獨立、土木建築請負業を開業した。

活動的な氏の事業の今後の發展は定めし眼ざましきものあるべし。

原籍地 鶴岡市

實業家 關原 彌里

現住所 東京市小石川區林町九四

氏は嘉永六年三月六日生、廣喜氏長男。

夙に舊官立宮城師範學校に學び、同校小學師範科を卒え、山形縣立師範學校教諭、

同中學校教諭を奉職し、地方教育界に貢献する所少くなかつた。

後官界生活に入り、山形縣屬より最上郡長、東田川郡長等に歴任したが、東田川郡
では彼の有名な吉田堰工事に際會し、氏の手腕を發揮したること亦少からざりき。

日露戰役の功に依り勳四等に叙せらる。

大正六年四月山形縣郡部より推されて衆議院議員に當選す。

其後上京、實業界に活躍を續けて居られる。

夫人繁子内助の功多し。

原籍地 米澤市

帝國生命保險會社
營業部長

宇佐美辰五郎

現住所 東京府豊多摩郡代々幡町幡ヶ谷北笹塚一

一五七

電話四谷五七五〇番

我國第一流の保險會社たる帝國生命保險會社營業部長の重職にある宇佐美氏は亦本縣米澤市出身の一人である。

郷里に於て小學、中學を終え、第二高等學校經由、東京帝國大學入學。明治四十一年同大學法科卒業。

其後直に實業界に身を投じて帝國生命保險會社に入り、本店詰より仙臺支店に轉じ後又本店に歸任し、漸次累進して營業部長となる。

氏年齒尙早其前途の發展刮目して見るべきものあらん。

原籍地 西村山郡川土居村一四九

日本畫家 笹島秀彌

現住所 東京府北豊島郡日暮里町一一〇三

氏は明治七年三月卅日生。

號月山。

明治卅年東京美術學校日本畫科出身。

特に佛畫に於て我國畫壇の一權威たり、以て氏の崇高なる人格の一面を見るべし。

原籍地 米澤市袋町

海軍中將 上 泉 德 彌

現住所 神奈川縣三浦郡逗子町櫻山

從三位勳二等功三級海軍中將上泉德彌氏は士族上原清次郎氏の長男にして、慶應元年九月二十五日米澤市袋町に呱呱の聲を擧ぐ。氏夙に海軍に身を投じ、明治二十一年海軍少尉に任せられ、同三十年十二月海軍大學校を出で、爾來累進して四十二年海軍少將に陞任す。大正二年十二月待命となり、同三年海軍中將に任じ豫備役仰付らる。その間海軍々全部付。生駒、薩摩各艦長。横須賀海軍工廠儀裝員。大湊要港部司令官、佐世保水雷隊司令官等に歴補す。

氏、日清の役には龍田分隊長として功あり、勳六等に叙せられ、北清の變に勳四等旭日章、功四級金鷄勳章を賜り、日露役には海軍々令部參謀として功あり。勳二等功三級に叙せらる。現時武士道鼓吹に努め各地に遊説す。夫人はきう子(明治九年生)と呼び五十嵐力助氏長女、長男徳三(明治三十一年生慶應理財科出身)長女クミ子(四十二年生)次女徳子(四十四年生)の一男二女あり。

原籍地 鶴岡市

正三位勳一等 貴族院議員 犬塚 勝 太郎

現住所 神奈川縣鎌倉町淨明寺六六

氏は庄内藩士盛親市の長男、明治元年三月を以て生れ。三十年一月家督相續す。明治二十二年東京帝國大學法科卒業内務省試補となり、翌年内務大臣秘書官に任せられ、傍ら中央大學法學講師となり、二十四年長崎縣參事官に轉じ、爾來遞信省、法制局參事官、貴族院書記官等を経て遞信省鐵道局長に累進す。後内務省土木局長、青森、長崎、大阪各縣知事に歴任し、政友會内閣成立と共に入つて遞信次官の椅子を占め、大正三年の政變と共に野に下り、山形縣より選出され衆議院に議席を占む。後寺内内閣成ると共に農商務次官となり大正九年貴族院議員に勅選さる。尙氏は曩に國際労働理事會帝國代表として渡歐し、錦鶏間祇候たり、大禮使たり、參與官たり、道路會議員たり、臨時國民調査會幹事長たり、萬國道路會議及國際労働會議帝國代表たりき。

原籍地 米澤市

江村内科院主 **江村 悌造**

現住所 東京市芝區今入町二一

電話二八一四番

氏は明治八年三月一日生。

慈惠醫專卒業。

明治三十六年醫師登録。

同年より大正八年迄築地山田病院副院長として勤務す。

其間獨逸に留學し、エルランゲン醫科大學に入り大正元年同大學にてドクトル試験に合格す。

大正八年現在の場所に江村内科院を開き以て今日に到る。

原籍地 最上郡新庄町

會社重役 **佐藤 源治**

現住所 東京府北豐島郡西巢鴨町宮仲二二八八

電話小石川四三五二番

氏は明治十八年十月廿五日生。
氏は目下日本軍需商工株式會社專務取締役、東京製靴株式會社取締役、株式會社壽屋商店取締役等の要職にあり。
堅實にして信用厚き實業家である。

原籍地 鶴岡市

醫 **赤谷 繁太郎**

現住所 東京市本所區綠町五ノ一

明治廿年十一月十三日生。
日本醫學校を卒業し、大正三年五月醫師としての資格を獲得した。
其前後市内各病院に入りて實地研究したが、大正六年に到つて現在の場所に開業し今日に到る。
内科、外科、小兒科、花柳病一般等である。

原籍地 鶴岡市

會社重役 村上幸作

現住所 東京府荏原郡品川町三ツ木橋槍ヶ崎一〇
一七

氏は明治六年七月生、先代妹千代の養子となり、後家督を相續す。實業界に入り、現在美久仁眞珠株式會社々長、極東電氣株式會社監査役たり。氏温厚にして然も斯界の敏腕家と稱せらる。家族は夫人フク子(明治十九年二月生)及び養子富作(明治三十四年生)氏と其夫人信子等なり。



原籍地 米澤市

公證人 太田與一郎

現住所 東京市四谷區麴町一二ノ一四

電話四谷二九八八番

氏は米澤市の出身。法學士。目下公證人として現住所に忠實に其の業務に従事さる。米澤有爲會教育部主事。

原籍地 山形市

高商教授 鹿野 清次郎

現住所 東京市牛込區若宮町三四

氏は慶應元年三月十日生。

鹿野小作氏次男。

郷里にて中等教育を卒え、進んで高等商業學校に入り、明治二十六年同校卒業。

同三十五年十月新潟商業學校長となる。

次で鹿兒島商業學校長兼教諭に轉任し、後滋賀縣立商業學校長兼教諭となり、同三

十六年東京商業學校教諭に榮轉す。

同三十九年十二月商業學研究の爲英米兩國へ留學を命せらる。

歸朝後引續き同校教授の職にあり、大正九年同校の商科大學となるや、同時に同大

學附屬商學専門部教授に任命され以て今日に到る。

正四位勳四等。

原籍地 山形市

菓子商 小 河 茂 七
紅谷分店主

現住所 東京市牛込區肴町二九

電話牛込二五七〇番
二五七一番

氏は明治六年三月生。

山形市淺倉茂左衛門氏七男、後小川家を嗣ぐ。

上京後現在の場所菓子店を開業したが、今日で紅谷菓子屋と云へば附近、否、東京

市内でも誰知らぬものもない程の有名な菓子屋であつて、以て如何に氏が成功程度

大なるかを看取される。

氏は最も營業に熱心で、且つ交際上手であるから、其營業が日増し發展しつゝある

のも無理はない。

夫人つる子との間に三男二女あり。

原籍地 最上郡新庄町

安田信託 常務 戸 澤 芳 樹

現住所 東京市麻布區森元町一ノ二七

電話青山三八七一番

氏は最上郡新庄町出身、中學校卒業後第二高等學校を経て東京帝國大學法科大學に入る。

明治四十年同大學卒業。

直に帝國海上運送保險株式會社に入り、其後昇進して同社副部長となる。

更に安田銀行に入り、同銀行秘書課長となる。

現在は安田信託株式會社常務として、其の東京支店を統轄し敏腕を揮ひつゝあり。氏年齒尙少壯、其前途の大成世人に注目さる。

原籍地 西置賜郡時庭村

酒販賣業 木 村 哲

現住所 東京市下谷區下根岸町六六

明治十四年三月六日生。

山形縣立米澤中學校卒業。

上京後永く元金杉小學校で教鞭を取つて居つたが、其後退職、大正十三年より現在地にて開店、盛業以て今日に到れり。舊姓井上。

原籍地 飽海郡松嶺町南町

飲食店 佐 藤 友 康

現住所 東京市本所區太平町二ノ一五四

明治卅年八月三日生。

同四十五年上京。東京市内で洋品店を開業したが、大正五年九月から現在の場所に飲食店を開業した。第一區憲政公和會理事、政治方面に多大の趣味を有し、従つて造詣も深い。本姓佐藤之康と稱す。



原籍地 飽海郡松嶺町

實業家 田口 淳興

現住所 東京市芝區三田小山町三

電話高輪三六一〇番

氏は文久元年一月一日生。

飽海郡松嶺町の出身で、其後出京、今日では本縣出身有数の實業家として東都實業界に雄飛さる。

目下増場株式會社、株式會社西田嘉兵衛商店取締役たり。

原籍地 南村山郡瀧山村平清水

陸軍憲兵大佐 出口 永吉

現住所 東京府豊多摩郡澁谷町下澁谷六一九

氏は明治十一年九月生。庄内鶴岡町に生れ、幼にして父母に従ひ、山形市の近傍千歳山の麓平清水に移住し（同氏の嚴父は瀧山村々長を勤められた）山形縣立山形中學校に入り同校卒業、其後上ノ山町小學校で教鞭を取ること約一年半、徴兵として山形歩兵第三十二聯隊に入營、翌年士官候補生として秋田歩兵第十七聯隊に入隊、明治三十五年六月陸軍歩兵少尉に任ぜられた。然も之と前後して氏の愛育に努めた慈母貞子刀自を失つたことは氏として悲痛の極みであつた。明治三十七八年日露戰爭には歩兵中尉として出征、三十八年一月黒溝臺戰で負傷後送せられて弘前病院入院、同院退院後第八留守師團副官となり、四十一年後、各地に中隊長として勤務し、大正二年六月憲兵に轉科。同七年十月には父長富氏を失つた。其後朝鮮、内地、北海道、薩哈噠憲兵隊長、姫路臺灣憲兵隊長となり、大正十四年八月憲兵講習所長、十五年憲兵司令部附となりて今日に到る。男一人あり。趣味は謠曲。

原籍地 最上郡戸澤村神田

官 吏 千葉 菊 太郎

現住所 東京府荏原郡駒澤町深澤一七三七

氏は明治廿四年一月一日生。

山形縣立新庄中學校卒業。仙臺第二高等學校を経て東京帝大に入る。

大正六年東京帝國大學工科大學卒業。

卒業後直に淺野同族株式會社に入り同六年から九年迄在勤した。

同九年より十一年迄高田鑛業株式會社に勤務。

同十一年鐵道省に入り以て今日に到る。

夫人やよひ子との間に一男一女あり。

原籍地 東村山郡金井村江俣

三菱合資會社 參事、資料課長 長 岡 德 治

現住所 東京市赤坂區檜町三

電話青山六一九九番

氏は明治二十年五月生。

南村山郡本澤村内海秀藏氏三男、後東村山郡金井村長岡新太郎氏養嗣子となる。

郷里に於て小學教育を卒え、山形縣立山形中學校卒業、高等學校を経て、東京帝國

大學に入る。

明治四十四年同大學英法科卒業。

直後三菱合資會社に入り、其後累進して現在の要職に到る。

家族は養父新太郎氏及び養母トキ子、夫人さと子(明治二十六年生)男陽太郎、女千

代子、喜代子、明子、男丞治等。

原籍地 米澤市

國際汽船會社 廣瀬隆吉
監査役

現住所 東京市下谷區上野櫻木町四八

電話下谷三七二三番

氏は明治九年十月二十一日生。

士族廣瀬禮藏氏長男。

山形縣立山形中學校卒業。

第二高等學校を経て、京都帝國大學に入學。

明治三十七年同大學法科大學卒業。

直に日本銀行に入り、調査局、計算局、國債局、小樽支店營業局に勤務。

大正五年明治銀行に入り支配人となる。

現今は國際汽船株式會社重役たり。

其他實業會社數多に關係し、本縣出身實業家の尤と稱せらる。

原籍地 米澤市

實業家 登坂小三郎

現住所 東京市麻布區廣尾町二

電話高輪五八五〇番

氏は米澤市出身にして明治四年十一月四日生、片山仁一郎氏三男、後登坂照四郎氏の養子となる。

小學校、中學校を郷縣にて終り、第二高等學校を経て東京帝國大學に入る。

明治三十年同大學法科大學卒業。

直に鐵道書記となり、三十三年鐵道書記官に任せられ新橋運輸事務所長、神戸運輸

事務所長等に歴任し、同四十年同省參事に任せられ仙臺營業事務所長となる。同年歐

米各國視察を命ぜられ、歸朝後東部監理局庶務課長となる。後官を辭して日本製鋼所

に入る。

刻下引續き實業界に活躍さる

米澤有爲會評議員理事。

夫人琴子明治女學校出身。

原籍地 山形市六日町

横濱市電氣局長 朝倉 政治郎

現住所 横濱市磯子町廣池二七〇

電話横濱一五七〇番

氏は山形市の出身。

郷里に於て小學校を終り、高等學校を経て京都帝國大學に入る。

明治三十三年同大學工科卒業。

其後横濱電氣局技師となり、現在は横濱電氣局長の重職にあり。

正五位勳五等

原籍地 西村山郡大谷村大谷

辯護士 大谷 確造

現住所 東京市小石川區原町二三

電話小石川五〇九八番

氏は本縣西村山郡大谷村の出身。

郷縣にて小學校、中學校を終え、第二高等學校を経て、東京帝國大學に入る。

明治四十五年同大學法科大學卒業。

爾後實業界に入り、東京油脂工業株式會社常務取締役となる。

刻下現在の場所に護讀士開業以て今日に到る。

原籍地 北村山郡楯岡町

洋品商 齊藤 庄次郎

現住所 東京市本所區押上町一〇四

電話墨田三六一八番

氏は明治十五年八月十三日生。明治四十二年上京、長くモスリン工場に入り、斯業の實地研究をした。大正四年現在の場所に開業したが、氏の營業方法宜しきを得て同地方第一流の洋品商とまで發展して居る。氏は小作人對地主問題、労働問題等に興味を有し眞劍に之が研究に従事して居る。

原籍地 南村山郡瀧山村平清水二

靴店 佐藤 豊太郎

現住所 東京府豊多摩郡中野町本郷一

明治十三年八月十五日生。鶴藏氏次男。明治卅四年上京。實地習業後、明治廿七年赤坂區青山北町四ノ一九で開業したが、大正十二年四月營業發展の爲め現在の場所に移轉し、營業益繁榮を極む。氏の營業は靴及附屬品一式製造販賣で、諸官衙各會社學校等に多大の顧客を有す。

原籍地 最上郡新庄町

教育家 阿部 淺吉

現住所 東京府豊多摩郡杉並町阿佐ヶ谷

四七五



氏は明治三年三月生。

明治二十七年福島縣立師範學校卒業。

其後十一年間同縣に於て小學校長として各地に教育に従事し、其効勞頗る顯著なるものあつた。

明治三十八年上京、市内二、三小學校長歴任、大正九年明川高等小學校長に就任、以て今日に到る。男子一人あり。

氏は他に東京小學校長會幹事、東京市深川區校長會幹事、東京市深川區教育會幹事、東京市深川裁縫女學校學監、東京市教育會深川支部幹事、東京府教職員互助會評議員等の重職を占む。以て氏の教育界に於る地位如何を見るに足るべし。

原籍地 最上郡新庄町

東京市社會局 職業課長 佐藤傳四郎

現住所 東京府荏原郡馬込村洗足三八二三

氏は前名を義治と云ひ、明治二十六年八月二十一日生。

明治四十四年新庄中學を出で、直に早稻田大學に學び、大正六年同大學政經科を卒業し、同七年から九年迄横濱増田貿易株式會社に勤務したが同八年から九年にかけて蒙古、青海、北支全道を旅行し、物資並に市場の調査に従事し、得る所頗る多かつた。同十一年から十四年迄英佛兩國に留學し經濟學を専攻した。最初獨逸に留學する豫定であつたが、同國に内亂が興るとの風評から急遽倫敦大學に變更したのであつた。歸朝後、即ち十四年十月東京市社會局職業課長の重職に就いて、年一萬人以上の就職先を世話して居る。其他勞働問題や授産場問題等に就ても氏の努力に俟つもの頗る多い。趣味は乗馬旅行。

原籍地 鶴岡市

戸山腦病院主 杉村幹

現住所 東京市牛込區若松町一〇二 電話牛込六六五番

氏は明治十四年一月廿日生。

明治卅三年東京府立第四中學校卒業、同卅四年七月仙臺第二高等學校第一部入學、同校卒業後、東京帝國大學に入り、明治四十二年同大學法科政治科を卒業し、更に大學院に入り研鑽に暇む。

同四十三年十一月警視廳に入り第一部警衛課、警務課、官房文書課等に勤務。大正元年父君經營の戸山腦病院に入り副院長となり、父君を扶けて百班の施設に改良を加え、經營其の宜しきを得て、事業大に發展し以て今日に到る。

院長に醫學博士加藤普佐次郎氏あり、副院長醫學士荒清氏、主事に元朝鮮總督府警視高橋義信氏あり、大正九年より東京府代用精神病院として内務省より指定さる。氏に四男一女あり。

原籍地 西村山郡東五百川村宮宿一七四

辯護士 鈴木榮司

現任所 東京市牛込區市ヶ谷本村町三五
電話牛込一七二四番

氏は明治十五年七月廿三日生。

山形縣立山形中學校卒業。

第三高等學校を経て、東京帝國大學に入り、明治四十二年同大學獨逸法律科を優等を以て卒業さる。

卒業後直に鶴澤總明博士の下に暫らく辯護士の實地見學をなし、其後獨立開業、以て今日に到る。

主として民事、商事々件を取扱ふ。

氏は圓滿な人格の持主で、然も其職務に頗る熱心であるから郷黨の信用亦淺からざるものある。

近時更に實業方面に飛躍し、兩羽電氣株式會社取締役、飽海電氣株式會社相談役たり。

原籍地 西村山郡白岩町白岩八六一

運送業金子屋 眞木定四郎

現任所 東京市本郷區駒込西片町一〇とノ一
電話小石川六五九九番

明治十一年六月卅日生、定治氏の長男、郷里に於て小學教育を卒え、實業に従事して居つたが、明治卅年上京、同四十四年現在の場所に運送業を開始し、努力奮闘以て今日的基础を築き上げ、尙逐日業務の發展を見る。

氏の基礎を築き上げ、尙逐日業務の發展を見る。

原籍地 鶴岡市

出羽屋蓄音機店主 小西孝二

現任所 東京新宿驛前

電話四谷八四二番

明治廿四年四月九日生。
東京芝中學卒業後、専門教育を受け、大正八年現在の場所に開業し以て今日に到る。杉並町高圓寺に支店がある。新宿驛前で出羽屋蓄音機店と云へば殆んど誰知らぬものもない有名な蓄音器店となつて居る。

原籍地 西村山郡谷地町

辯護士 平 泉 長 助

現住所 東京市神田區榮町一六番地

電話下谷六一八五番

明治十七年八月廿八日生。同三十六年山形中學校卒業。同四十年明治大學法科卒業。其後判檢事辯護士試験及第。大正三年五月辯護士名簿登録。以て今日に到ると云ふのが氏の簡單な履歴であるが、氏の緻密な頭腦と圓満な人格とは郷黨は勿論、各方面に多大の信頼を受けて居る。氏の専門は民事であつて花々しく世間に傳へらるゝやうな辯護事件はないが、暗黙の裡に着々其地歩を作り來つたのは特筆に値する。氏は政治上には何等の野心もなく、純然たる一法曹として終始したの事は以てしても其人格の一斑は想像さるゝのである。



原籍地 米澤市

東京帝國大學教授 佐 藤 寛 次

現住所 東京府荏原郡松澤村赤堤四四〇

氏は明治十二年生。

郷里に於て中學教育を終え、高等學校から東京帝國大學農科大學に入學。

明治三十七年同大學農科卒業。

同大學助教授となり、更に教授に昇進さる。

農學博士學位號授與さる。

夫人令子。

原籍地 米澤市

北村胃腸病院長 矢尾板誠策

現住所 東京府豊多摩郡代々幡町代々木初臺四

七六

電話四谷一一四〇番

氏は明治十八年二月生。

山形縣士族三段崎景徳氏男、景之氏弟で當主道雪氏の養子となる。

郷里の中學校を卒え、高等學校から東京帝國大學醫科入學。

明治四十三年同大學醫科卒業。

大正十年醫學博士となる。

自ら北村胃腸病院を創立、經營し以て今日に到る。

因に日本橋北村胃腸病院は本材木町二ノ一三(電話大手一八一番)である。

原籍地 東京市淺草區花川戸町二

洋酒販賣業
葡萄酒醸造業

神谷傳兵衛

現住所 原籍地

電話淺草六九〇番、六九一番

氏は明治三年十月十一日生、山形市旅籠町有名の菓子舗榮太樓小林二八氏の次男で戸籍は東京市にあるが生粹の山形市出身である。

郷里で小學教育を終るや直に出京して先代近藤利兵衛氏の店員となり、先代の神谷傳兵衛氏に認められ明治廿七年其養子となり、前名を傳藏氏と云つた。

氏は獨力奮勵して語學を研究し、其後醸造學研究の目的で佛國に留學し、葡萄酒製造會社に入り實地研學し大に得る所あり、夫れより獨塊に於る同業を視察して歸朝し間もなく茨城縣牛久に葡萄酒を開き、蜂印香窠葡萄酒の外、蜻蛉印牛久葡萄酒の醸造販賣に従事して居る。

蜂印香窠葡萄酒と云へば日本全國殆んど其名を知らぬことのない程有名である。其醸造經營は凡て氏の方寸より出づるもの氏も亦東北男兒として東都實業界に大に氣を吐くものと稱して可なり。夫人は先代傳兵衛氏の姪。

原籍地 最上郡新庄町

近江屋呉服店 小林三郎

現住所 東京市浅草區茅町二ノ一五

電話浅草四三〇〇番

明治卅一年三月十三日生。

内藤新一郎氏の三男、滋賀縣長濱の人小林茂三郎氏の養子となり、明治卅七年、現在
の場所を開店、近江屋呉服店として營業日増しに發展しつつある。明治卅七年、現
氏は大正十三年早稻田大學商科の出身で養父を助け現在の營業に従事す。

原籍地 山形市香澄町

内田商店店員 天野瀧五郎

現住所 東京市本所區太平町一ノ一

氏は明治二十五年十二月十五日の出生。
大正三年上京。銅鐵商内田商店々員として今日に到る。
劍道に興味を有す。



原籍地 米澤市表町

復興局經理部 購買課長 上倉三之助

現住所 東京府北豊島郡西巢鴨町宮仲一九

九四

氏は明治十四年六月生、繁藏氏の養嗣子。

米澤市興讓小學校から明治三十三年米澤中學校卒業、直に早稻田大學に入り、同三
十八年同大學法學部を卒業し、同四十年鐵道院に奉職したのが官界登龍門の始めであ
った。

鐵道院在職中、高文試験をパスし大正十年には東京電氣局工業課主事拜命、工場調
査課に勤務して居つたが大正十二年の大震災後復興局倉庫課に轉じ、十三年十月に
は購買課長の要職に就くこととなつた。氏は大正八年から十年迄大本教幹部として活動し、
今も尙熱心な信者の一人である。夫人たけ子(明治十六年十二月生)との間に女子四人
あり。長女は既に他に嫁さる。

原籍地 南村山郡金井村

辯護士 箭 柏 卯 行

現住所 東京府豊多摩郡大久保町西大久保三二一

氏は明治十八年十一月廿七日生。

明治四十年東京青山師範學校を卒業したが、氏が天稟の法學的天才は氏を驅つて更に日本大學に入らしめ、大正二年同大學法律科を卒業した。

卒業後、越えて大正二年辯護士試験に登第。

爾後辯護士を開業し今日に到る。

氏は非常に愛郷心に富み、従つて郷黨關係の事業には頗る熱心である。

事務所

日本橋區本材木町二ノ一一(電話大手六一九三番)

原籍地 最上郡新庄町

書 家 狩 野 探 令

現住所 東京市下谷區谷中清水町二〇

狩野派の大家として有名な狩野探令氏は最上郡新庄町出身、父忠俊氏は同地方の郷士で世々武を以て新庄藩に仕ふ。

幼より書を好み、長じて菊川、真利、狩野探美に師事し、専ら狩野派の書趣を學び、而して其真髓に到達した。今日で狩野派の遺鉢を完全に傳へた大家は同氏の外にないので、此點から云つても氏は日本書壇の權威である。

曩に後樂園玉座、東宮御所張付書揮毫御用品の榮に浴し、明治二十年以降、石川、佐賀の兩縣技師となる。

日本美術協會々員、日本書會理事、日本美術協會委員に擧げらる。

六陶居士は別號である。又臺北畫航と毫名す。

夫人勇子(板倉藩士岡本有方氏二女)との間に三男二女あり。

本名荒木丈太郎、齡既に古稀に及ぶも今尙鏗鏘として健在、其雄渾なる作品は廣く世間に愛好せらる。

原籍地 西田川郡大山町

東京工業試験所部長 野口寅之助

現住所 東京府北豊島郡西巢鴨町池袋大原一三九

電話小石川二一〇五番

正四位勳四等、東京工業試験所第四部長、並に特許局技師、野口寅之助氏の略歴。
明治十一年八月生。

本間良太郎氏次男、明治四十四年十月長野縣人野口拾子養子となる。

明治三十九年東京帝國大學工科大學工業化學科卒業。

同年八月東京工業試験所技師任命。

大正八年七月特許局技師兼任、以て今日に到る。

家族は長女優子(大正三年生)次女麗子(大正五年生)三女英子(大正八年生)等。

原籍地 最上郡新庄町

陸軍少將 小磯國昭

現住所 東京市麻布區森元町一ノ二七

電話青山六一一番

氏は明治十三年三月廿二日生。

新庄藩士小磯進氏男、進氏は長く各地方の郡長として令名ありき。

山形縣立山形中學校卒業、陸軍士官學校に入り、同校卒業陸軍少尉に任せられ、爾

後累進して陸軍大佐となる。

大正三年九月關東都督府軍部參謀に任せられ、後歩兵第二聯隊第二大隊長に轉じ、

大正四年七月參謀本部員に拔擢さる。大正十五年十一月更に陸軍少將に昇進す。

明治三十七八年日露職役に於て遼陽、鐵嶺、沙河の各戰に参加し、功に依り功四級

金鷄勳章を賜はる。

夫人けい子は新潟縣代議士たりし牧口義方氏の六女なり。

原籍地 山形市小姓町一三九

諸機械電氣
ラヂオ輸入業
菊地久吉

現住所 東京府豊多摩郡杉並町高圓寺谷
中六〇九



ラヂオ——何と云ふ文化的な響きを持つた言葉であろう。ラヂオが日本に始めて具
體化したのは大正十五年、即ち今年であり飛行機を愕いた時代がすぐ昨日だと思つた
ら今日はラヂオだ。何と云ふ愕くべき文明の進歩であらう。そしてその文化的器械の
輸入業の任に當る菊地氏は吾が山形の人、東陽氏の令弟である。

一體氏の如き先驅的事業家はどんな經歷を持たれたものであらう。
明治四十年山形中學卒業。

明治四十三年仙臺高等工業學校卒業。卒業後吳海軍工廠に奉職、同年山形瓦斯、鶴岡
瓦斯會社技師長として設計工事をなし、後、大正三年より七年迄米國に遊び、歸朝後
諸機械電機の輸入業及製作工事に従事して今日に及ぶ。

原籍地 南村山郡上ノ山町

木村醫院主 木村良三

現住所 東京市牛込區北山伏町四三

氏は明治廿三年九月四日生。

大正六年九州大學醫科大學卒業。

同時に醫師名簿に登録。

大正八年より同九年迄杏雲堂第一呼吸器科勤務、其後現在の場所に開業(内科)して
今日に到る。

濟生會本部病院勤務。

原籍地 南村山郡上ノ山町

銀行員 林 龜助

現住所 東京府北豊島郡西巢鴨町向原三四五九

氏は明治廿七年四月廿七日生。

大正七年東京高等商業學校卒業。

直に株式會社常盤商會に入る。

同十年十月退社。

東北建物合資會社に出資し、建物業を營んで居らるゝが、他に米穀食料品の販賣業を現在の場所で經營して居る。

氏自身は共榮貯金銀行に勤務し、熱心に行務を取られて居る。活動的な前途多望の青年實業家。

原籍地 東村山郡天童町

赤キ屋商店主 斯真田百三郎

現住所 東京市日本橋區南傳馬町一ノ五

電話京橋七五七番

氏は明治二年二月生、舊天童藩士佐藤直正氏の五男。

同三十年斯真田家を相続す。

東京専門學校に入り、明治二十六年七月以來三十一年四月に到る迄貿易研究の目的を以て前後三回渡米し、桑港市俄古紐育ポストンの各地に雜貨店を開いて巨利を博し歸朝後神田須田町に直輸入商店を開く。

同三十三年義弟と共に洋酒飲料品雜貨直輸入業島田商會を横濱市元町三丁目開設鐘詰受託販賣、專賣特許衛生鐘材料工場等を創立す。

刻下現在の場所に雜貨商、雜貨直輸入業を開き、繁昌を極む。夫人ゑい子、三男二女あり。氏は他に幾多實業會社の重役を兼ね。

原籍地 山形市

齒科醫 高橋 榮五郎

現住所 東京市麴町區三番町七八

電話四谷五七二八番

氏は明治八年七月生。

幼少より齒科醫たらんことを志し、明治二十三年二月上京、中原市五郎氏に師事して齒科學の蘊奥を極む。

同三十年四月内務省醫籍登録。

同三十四年現在の場所に開業、以て今日に到る。

氏の嚴父高橋誠齋氏は口中齒醫の名手として有名な人で、山形縣齒科醫の元祖である。其實兄榮次郎氏は山形市に開業し、之亦盛業を續けて居る。

此間に人となれる氏は齒科醫として其技術の優秀なるは云ふまでもなく、従つて患者の信用最も厚し。

麴町區富士見小學校囑託醫、東京管理局囑託醫である。

原籍地 東置賜郡上郷村竹井

從 六 位 近 藤 周 藏

鐵道省建設局事務官 現住所 埼玉縣浦和町鹿島臺

明治十九年十二月六日生。

明治卅八年山形中學校卒業。

明治四十一年早稻田大學高等豫科卒業、同四十三年大學部政治經濟科を卒えた。卒業後鐵道建設局に勤務し、其後累進して事務官となり、以て今日に到る。

原籍地 鶴岡市十日町乙八九番地

慶應義塾 職員 安 食 高 吉

現住所 東京市芝區白金三光町四二九

氏は明治十八年三月一日生。

明治三十七年三月庄内中學校を卒業す。

同四十四年三月慶應義塾文學部を卒業。爾來同塾圖書館に奉職し以て今日に到る。高朗氏の二男である。

原籍地 東田川郡手向村八九

會社員 小 關 良 平

現住所 東京市四谷區東信濃町一〇



氏は明治廿三年四月八日生。源八郎氏長男。

明治四十二年山形縣立鶴岡中學校卒業。

大正三年第八高等學校一部英法科卒業。

更に東京帝國大學に入り、大正六年同大學法科經濟科を卒業した。

卒業後直に住友製鋼所に入社し、同十一年販賣課長となる。

同十四年九月住友合資會社支店長代理として東京支店に勤務し、以て今日に到る。

夫人勝子(三三)は奈良高女出身。

男一人、女二人あり。

次弟守之助氏は東京帝大文科大學哲學科を専攻さる。

原籍地 西置賜郡小國本村小坂町

醫 佐 藤 誠 珍

現住所 東京府北豊島郡南千住町千住南三

電話淺草五八四番

氏は明治七年九月二十七日生。

舊米澤藩士佐藤珍忠氏次男。

夙に醫學に志し、郷里の學校を終るや、十九歳で東上、専ら醫學を獨學し、遂に前期試験に合格し尙岩佐男の門に入り研究、明治三十三年十一月文部省醫術開業試験に及第し、内務省醫籍に登録さる。

爾來現在の場所に開業、更に岩佐男爵、金杉博士、櫻井博士に親炙して産科婦人科内科實習の功を積み、以て今日に到る。

氏は他に千住町醫、千住町會議員等幾多の公職名譽職を有す。數多保險會社の診査醫たり。夫人さだ子。

原籍地 鶴岡市

實業家 浦壁長富

現住所 東京市芝區白金三光町四五三

電話高輪九六六番

氏は慶應三年七月十三日生。
世々鶴岡藩士たり。

夙に郷校に學び、後東上して東京共立學校に入り、専ら英學を修むること約三ヶ年
尋で高等師範の前身たる東京師範學校に入學し、將に卒業期に入らんとして不幸病魔
の冒す所となり、在學三年餘にして遂に退學の止むなきに到る。

其後更に外國語學校に入りて英語科別科を修め、明治二十年明治生命保險に入り居
ること五ヶ年、其手腕阿部社長に認められ、之が姉妹會社たる明治火災に轉勤したのは
同社創立の翌年即ち明治二十五年であつた。後之を辭し東洋麻毛株式會社監査役たり。
刻下三菱重役の一人、東都實業界有數の人物に數へらる。
夫人清子。

原籍地 北村山郡楯岡町

醫 岡田朋藏

現住所 東京市麴町區元園町一ノ二九

氏は本縣北村山郡の出身。

郷里の小學、中學を卒業して上京、東京慈惠醫學專門學校に入る。

明治四十三年同校卒業、慈惠醫學士となる。

爾後現在の場所に開業、以て今日に到る。

氏の圓滿なる交際振りと熟練した診療は患者の厚き信用を得、創業既に二十年に近
く、基礎益其牢きを加えて居る。

氏は區内に於て幾多の公職、名譽職を有して居る。

原籍地 米澤市

醫 鈴木 信一

現住所 東京市四谷區花園町三七

電話四谷二六三〇番

五六八

氏は明治十六年四月十六日生。

米澤市屋代町上ノ町鈴木好信氏の長男で、好信氏は嘗て機業を營み、同地方での名門である。

山形縣立米澤中學校卒業。

其後上京して東京慈惠醫院醫學專門學校に入學。

同四十年同校卒業。

後日本赤十字病院に勤務し、實地の研究を積むこと數年、大正二年辭職。

其後現在の場所にて醫師開業、以て今日に到る。氏は四谷區會議員等を始め幾多の公職、名譽職を有す。以て氏の區内に終る德望を見るべし。夫人芳惠子との間に二男あり。

原籍地 東村山郡天童町

寫眞業 大武 徹夫

現住所 東京市芝區白金臺町一ノ六三

明治十三年九月七日生。

兄丈夫氏の許で永く寫眞業を極め、大正元年牛込區に開業、戸山學校、女子醫學、士官學校等有力なる顧客を得、殊に士官學校の武術體操を寫すは氏の最も得意とする所にして容易に他の追隨を許さず。従つて好評噴々たりき。其後業務發展の爲め現在の場所に移轉せり。

原籍地 飽海郡酒田町新米屋町六二

印判彫刻業 遠藤 市郎

現住所 東京市四谷區舟町六九

明治廿八年十月十日生、高山米藏氏長男。郷里で印判彫刻業修業後、大正四年五月廿六日、志を立て、上京、横濱に於て印判彫刻業を開業し、少からぬ好成績を收めたが、十二年の大震災に遭遇したので、其後直に東京に出て現在の場所を開業、營業日増し繁昌しつゝあり。

五六九

原籍地 飽海郡酒田町下内匠町三三

日本醫事衛生
興信所社長

佐藤巳出弘 (九門)

現住所 東京市本郷區駒込蓬萊町六ノ二號

明治八年五月十日生。

同廿六年八月出京、種々の方面特に操觚界に非凡の活躍をした其事蹟は未だ世人の視聽に新である。

現在は日本醫事衛生興信所社長、酒田新聞、鶴岡新聞東京特置通信員として活動して居る。

原籍地 西村山郡谷地町四四

官吏 松田芳助

現住所 東京市麴町區有樂町一ノ二

明治廿三年一月生。
盛岡高等農林學校出身。
警視廳に入り累進して目下警視廳警視、官房會計課長たり。



原籍地 南村山郡飯塚村

陸軍士官學校教官
陸軍歩兵大尉 佐藤正一

現住所 東京市牛込區市ヶ谷谷町四九

氏は明治廿八年四月生。

大正二年山形縣立山形中學校卒業。

同五年陸軍士官學校を卒業し、山形聯隊に入隊す。

更に陸軍大學に入學、大正十三年同大學を卒業す。

大正十五年七月より陸軍士官學校教官となり、以て今日に到る。

豪放濶達、然も周匝なる思慮を有する好箇軍人の典型。

原籍地 鶴岡市

醫 堀 義 水

現住所 東京府荏原郡目黒町中目黒七三一

電話高輪五六九五番

氏は安政三年十月二十三日生。東順氏長男。

夙に嚴君に就き醫學を修め、尋で山形濟生館囑托獨逸人ローレッツ氏に師事して最近醫學を研究し、爾來山形縣濟生館、福島縣醫學校及病院等に歴任し、之より先醫術開業試験に合格し、明治十四年醫術開業免狀を受く。

同十六年上京、神田區に開業、同十九年警視廳監獄醫となる。同三十三年之を辭して牛込區に醫師開業、更に現在の場所に移轉引續き醫師開業、以て今日に到る。

氏は曩に牛込區會議員、小學校々醫、衛生組合長、兒童保護者會幹事、同愛會救療社員、生命保險診査醫たり、其他幾多の公職名譽職を有す。夫人千萬子内助の功多し。

原籍地 鶴岡市

辯護士 阿 部 彦 郎

現住所 東京市神田區表神保町一〇

電話神田三五二七番

氏は明治十四年八月生。

郷縣の庄内中學校出身。

進んで第一高等學校に入り、更に東京帝國大學に入る。

明治四十二年大學獨法科卒業。

其後辯護士を開業し、以て今日に到る。

民刑行くとして可ならざるはなきも特に民事を以て得意とす。

原籍地 米澤市

豫備歩兵中佐

千坂洋三郎

現住所 東京府荏原郡目黒町上目黒氷川六三六

氏は明治七年十一月十八日生。

米澤市名門前貴族院議員であつた千坂高雅氏の男。

幼より武を好み、日清戦役の際歩兵第五聯隊補充大隊に入隊。

明治二十八年士官學校に入り、同二十九年卒業して見習士官となる。同三十年歩兵少尉に任じ、同三十二年中尉となる。同三十三年旅團副官、同三十六年大尉となり、歩兵第三十一聯隊中隊長に補せられ、同三十七年大本營陸軍管理部副官となり、清國營口に上陸、部下を指揮して海上勤務に従事し、更に露國騎兵團來襲に對し防禦主任を命ぜられ殊功あり。

明治三十九年四月歸國、歩兵第三十一聯隊附を命ぜられ、大正二年第三聯隊大隊長に補せらる。勳功を以て功五級勳四等瑞寶章を賜はり、中佐に昇進す。目下豫備歩兵中佐。

原籍地 飽海郡酒田町中袋小路二九

醫 小柴健治郎

現住所 東京府北豊島郡瀧野川町田端六五三

明治廿三年十月廿日生。

大正八年六月私立東京醫專卒業、直に順天堂病院に入り、近藤博士の下に二ケ年實地研究をなす。

大正十一年七月現住所にて開業以て今日に到る。人格の人として令聞あり。氏は小柴傳七氏の長男。

原籍地 鶴岡市

慶應義塾圖書館 國分剛二

現住所 東京市芝區二本榎町二ノ三二

氏は明治廿五年十一月一日生。

大正七年上京。慶應義塾圖書館勤務、以て今日に到る。

原籍地 東置賜郡高畑町

東館主 丸山美津

現住所 東京市下谷區中坂町三一

明治十六年三月十六日生。

大正八年上京、本郷區春木町二ノ一二に於て下宿業を營んで居つたが、同十四年八月現在の地に移轉、旅館兼下宿業を營み以て今日に到る。

原籍地 山形市小荷駄町一七五

洋服裁縫業 有川尙助

現住所 東京市淺草區淺草町一〇四

明治八年十月十七日生。

助吉氏長男、山形中學校卒業後、足袋裁縫商山田庄五郎氏の店で修業、明治卅一年自宅で足裁商を七年間開業したが、更に洋服裁縫店を開業し、後意を決して大正七年上京、現在の場所洋服裁縫業を開業し、震災で一時全滅したるも、忽ちにして復興日一日盛大に赴きつゝあり。尙氏に三子あり。



原籍地 米澤市本五十騎町

實業家 淺間龍藏

現住所 東京市小石川區大塚仲町四一ノ一一

電話小石川二八三八番

氏は明治十七年六月廿三日生、保四郎氏の次男である。

明治三十六年米澤中學を卒業し、更に後藤子爵主宰たる東洋協會大學に入り同四十年同大學を卒業した。

卒業後直に日本橋の輸入商飯田商店に入り十年間の長年月を勤務したが、大正六年同店を辭し、同年八月一日から千代田貿易商會(個人經營)を創立し、外國貿易事業に従事し今日に到る。

趣味は狩獵、釣り、山登り、遠足等其他書畫にも一隻眼を有し頗る多面である。夫人屋壽子(三八)との間に二男一女あり。尙氏の營業所は左の通り。
東京營業所 麴町區有樂町二丁目日本興業銀行内(電話牛込五二四六、五九二二番)
大阪營業所 北區絹笠町大江ビルヂング(電話北三一九五番)

原籍地 西田川郡大山町

秋野電機
製作所主

秋野安治

現住所 東京府荏原郡平塚町中延大原北一〇八三
營業所 東京市芝區金杉三丁目二六

電話高輪七九四一番

氏は明治廿一年生。

明治四十年庄内中學校卒業。

同四十四年東京高等工業學校電氣科を卒業す。

直に三菱電氣製作所に入り、捲線鐵心工場を擔當し、同工場係長となる。

次に横濱工業株式會社工場長(電氣株式器具製造)となり、震災直後、大正十二年十

二月より現在の場所に電氣製作所を創立盛業以て今日に到る。

營業品目は電氣機械器具製作修理販賣其他電氣工事設計請負監督等。

男二人、趣味は弓、玉突、謠曲。

原籍地

南村山郡柏倉門傳村柏倉一〇三八

醫 齊藤五一

現住所

東京府北豊島郡巢鴨町上駒込一一

氏は明治廿八年十月廿四日生。

大正二年山形縣立山形中學校卒業。

更に新潟醫學專門學校に入り、大正十年之を卒業した。

卒業の翌年、即ち大正十一年から京橋區築地林病院に勤務し、以て今日に到る。

一女あり。

原籍地 南村山郡東澤村

辯護士 堀田 熊三郎

現住所 東京府荏原郡目黒町下目黒二二二

電話高輪五一五八番

氏は本縣南村山郡東澤村の出。

郷里に於て小學、中學を卒業、更に上京して明治大學に入る。

明治三十二年明治大學法科卒業。

間もなく辯護士に登第、爾後辯護士を開業し以て今日に到る。

本業の傍ら幾多の公職、名譽職を有す。

原籍地 鶴岡市

辯護士 八 太 茂

現住所 東京市麻布區筈町一二五

電話青山五九七一番

氏は明治十九年七月十七日生。

杉村正謙氏二男、後桂禮氏の養子となりて八太姓を冒した。

日本中學校、第六高等學校を経て東京帝國大學に入る。

明治四十一年七月同大學獨逸法律科卒業。

其後横濱地方裁判所檢事たり。大正三年十月感ずる所ありて退職。

爾來辯護士を開業して今日に到る。

氏は戸山腦病院顧問の外、幾多の公職名譽職を有す、

夫人八代子は女流齒科醫にして内助の功少からず。

原籍地 山形市

醫 齊 藤 知 二

現住所 東京市本郷區駒込富士前町四三

電話小石川二八二三番

氏は明治十五年七月七日生。

郷里に於て普通教育を終り上京、傳染病研究所に入り、第二十三回細菌學講習生として學業を卒え尙研究怠らず明治四十年四月内務省醫術開業試験に及第、次で淺草内田小兒科病院に聘せられて醫務長となり其任にあること二ケ年、同四十三年東京大學醫科大學專科生となり同年九月卒業、獨立して醫師開業。

其間北里研究所及弘田博士及慶大金澤博士等に就き研究、大正七年市會議員當選後渡歐、瑞西國ベルン大學に於て研究、ドクトルの學位を得、後獨逸國にてウインピルベイ氏教室に於て小兒科研究、大正十一年歸朝、翌十二年開業、以て今日に到る。

氏は府醫師會評議員並に代議員日本小兒科學會、東京地方會各幹事たり。兒童健康相談所設置、衛生常設委員設置、都市糞尿問題の解決等に努力さる。

原籍地 西村山郡寒河江町一九六

理髮業 大久保勝次郎

現住所 神奈川縣鶴見町潮田二四二八

氏は明治三十年三月廿五日生。

亡大久保克孝氏次男、克孝氏は永く郷里に於て小學教育に従事し、地方教育界に貢獻すること少くなかつたが、惜いかな、今や既に亡し。

氏は郷里に於て學業を修め、大正七年九月横濱に出で理髮業を開業したが、其後現在の場合に移轉、同業を繼續し以て今日に到る。

氏の兄勝太郎氏は現在朝鮮平安南道海蘇公立普通學校々長たり。